

**2010年3月期 第3四半期
SBIホールディングス株式会社
決算説明会**

2010年1月27日

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

1. 2010年3月期第3四半期の事業概況
2. 今後の事業方針概略

1. 2010年3月期第3四半期の事業概況

(1) 連結決算業績

(2) 主要ビジネスラインの概況

(1) 連結決算業績

2010年3月期第3四半期累計 連結決算業績

(単位:百万円)

	2009年3月期 3Q累計連結決算	2010年3月期 3Q累計連結決算	前年同期比 増減率(%)
売 上 高	101, 172	90, 825	▲10. 2
営 業 利 益	5, 147	※4, 5 4, 174	▲18. 9
経 常 利 益	1, 730	2, 250	30. 0
当 期 純 利 益	※1, 2, 3 ▲11, 847	※6 1, 486	—

※1 民事再生手続開始の申立てを行ったゼファー社株式に対して関係会社株式売却損94億円を特別損失に計上

※2 E *TRADE Korea株式の譲渡に伴い、105億円の特別利益を計上

※3 ゼファー社向け貸付金に対して貸倒引当金繰入15億円、住友信託銀行株式に対して投資有価証券評価損55億円を特別損失に計上

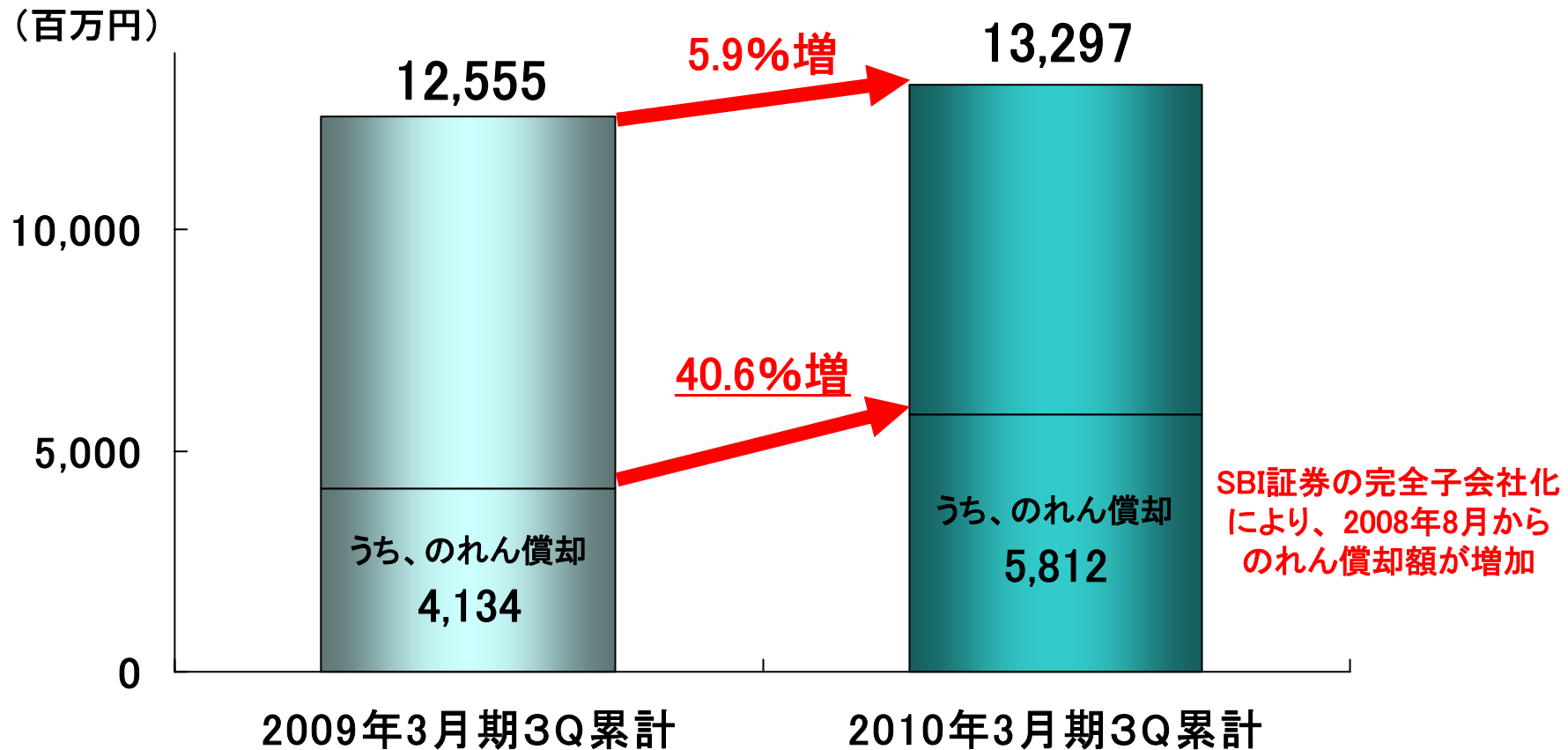
※4 SBIイコールクレジットにおいて貸倒引当金繰入11億円を計上

※5 SBI証券の完全子会社化などにより、のれん償却額が17億円増加

※6 ゼファー社向け貸付金に対して貸倒引当金繰入14億円を特別損失に計上

EBITDA※の前年同期比較

営業利益は前年同期比18.9%減ではあるものの、EBITDAは同5.9%増となっており、SBI証券等ののれん償却(5,812百万円:2010年3月期3Q累計)が営業利益の大きな押し下げ要因となっている



※EBITDA(Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization): 利払い前・税引き前・減価償却前・その他償却前利益
 国ごとに異なる金利水準や税率、会計上の取扱いの差異を取り除いた上で、他人資本を含む資本に対してどの程度の
 キャッシュフローを産みだしたかを簡易的に示す利益概念。以下の算出式により計算。
 EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却

連結決算業績のハイライト①

I 事業環境に厳しさの残る中、引き続き営業黒字を確保

- 2009年10-12月期の一日平均個人株式委託売買代金が、2009年7-9月期比20%減少するなど、事業環境に厳しさが残る中、当期第3四半期累計では、**売上高は前年同期比10.2%減の908億円、営業利益は**、SBI証券完全子会社化に伴うのれん償却(当期第3四半期累計:31億円、前年同期:17億円)等の増加も影響し、**18.9%減の42億円となったものの、営業黒字を確保。**
- EBITDAは前年同期比5.9%増**となっており、のれん償却等の増加が営業利益減少に大きく影響。

II 経営の一層の効率化を目指して2008年より実施してきた組織再編成も一巡し、今後の新たな成長に向けた環境整備が完了。

III 主要ビジネスラインでは、株式市場が本格的な回復に至っていない中、アセットマネジメントならびにブローカレッジ&インベストメントバンキング事業が営業増益を達成

- 国内IPOが引き続き低迷する中で、**アセットマネジメント事業は**アジア地域の株式市場が日米欧に先行して回復した恩恵を享受し、**25億円の営業利益を確保。**
- 2009年4-12月期の一日平均個人株式委託売買代金が、前年同期比11%減少するなか、引き続き好調なFX取引による収益寄与も大きく、**ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業の営業利益は前年同期比60%増の78億円**となり、業績を牽引。
- 2010年6月の改正貸金業法の完全施行を控え、個人向けローン事業において、貸倒引当金繰入等を累計18億円(第3四半期には約8億円)計上していることや、新規事業が引き続き営業赤字となっていることから、**ファイナンス・サービス事業の営業利益は黒字**ながら前年同期比95%減となる。

連結決算業績のハイライト②

Ⅲ (前ページ続き)

- 昨年度より続いている国内不動産市場の低迷などにより、住宅不動産関連事業は累計で2億円の営業損失を計上しているものの、不動産市場に一部回復の兆しが見え始めており、四半期ベースでは第3四半期に黒字化。

Ⅳ 上場子会社の業績も底を打ち、回復に転じる

- モーニングスターの連結営業利益は、前年同期に比べ減益ながらも、前年度第3四半期以降、四半期ベースの営業利益は回復基調。
- ゴメス・コンサルティングはコスト削減により黒字転換を達成。第2四半期以降、四半期ベースで営業黒字となっており、業績は底を打つ。
- SBIベリトランスの連結営業利益は前年同期比13%増となり、業績は引き続き順調に伸張。
- SBIライフリビングは、事業再編による収益の多様化などが奏効し、四半期ベースの連結営業利益は、第2四半期に黒字転換後、第3四半期も引き続き黒字となっており、第3四半期累計でも黒字化。

Ⅴ 第2四半期にゼファー社向け貸付金に対する貸倒引当金繰入14億円を特別損失に計上

- ゼファー社向け貸付金に関する同社との訴訟に関し和解が成立したこと等により、当第2四半期に特別損失として14億円の貸倒引当金繰入を計上。

Ⅵ 2009年12月末における現預金残高(連結ベース)は1,466億円と高水準を維持しており、引き続き財務健全性を堅持

経営の一層の効率化を目指し実施してきた SBIグループ内の組織再編成①

完全子会社化

SBI証券(旧SBIイー・トレード証券)

新規事業との様々なシナジーが期待できることから、株式交換により完全子会社化(2008年8月1日)

SBIフューチャーズ

国内商品先物市場の市場規模縮小等、事業環境が著しく悪化している為、商品取引受託業務を廃止し(2009年7月31日)、株式交換により完全子会社化(2009年8月1日)

売却

SBIカードプロセッシング

ノン・コア事業であることからカード事業と切り離し、合併パートナーであったSilverlake Axis Limitedへの保有株式を譲渡(2009年11月)

E*TRADE Korea

投資利益を今後更なる成長が期待できるアジア諸国での証券業等の事業展開に効率的に利用していく事が、今後の経営戦略上最良であると判断し、保有全株式を売却(2008年9月)

経営の一層の効率化を目指し実施してきた SBIグループ内の組織再編成②

より成長できる環境への事業移管等

SBIライフリビング(旧リビングコーポレーション)

新たな事業モデルの構築と、収益の多様化による事業規模の拡大を図るべく、2009年7月1日付でSBIホールディングスの生活関連ネットワーク事業の一部および不動産サービス事業を移管。

SBIイコール・クレジット

貸付業務を停止し事業縮小を図るとともに、関連する事業を一体的に運営することで事業効率を高めることを目指し、SBIカードと統合
(2010年1月12日)

事業効率を高めるため他の企業グループへ

インテクストラ(旧SBIインテクストラ)

インテクストラの実施した第三者割当増資に日本ユニシスが応じ、同社の子会社に(2009年8月24日)。なお引き続き同社株式の45%を保有。

より効率的な事業構成への変更

イー・ゴルフ

集客力の高い中部・関西圏での事業展開に注力すべく、本社機能を大阪に統合することで事業の効率化を図り、業績は改善。

セグメント別 営業利益の四半期推移

(単位:百万円)

	2009年3月期		2010年3月期		
	前第3四半期 (2008年10～12月)	前第4四半期 (2009年1～3月)	当第1四半期 (2009年4～6月)	当第2四半期 (2009年7～9月)	当第3四半期 (2009年10～12月)
アセットマネジメント	※1 ▲517	586	1,940	183	369
ブローカレッジ & インベストメントバンキング	233	826	3,055	2,929	1,825
ファイナンシャル・サービス	358	377	158	146	※4 ▲245
住宅不動産関連	103	※2 ▲529	▲119	※3 ▲467	411
システムソリューション	98	▲160	▲196	▲155	▲172

※1 SBIキャピタル運営のSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有するVSN株式評価損14億円など、営業投資有価証券 評価損23億円を計上

※2 連結子会社のセムコーポレーション(SBIホールディングスに加えSBIキャピタル運営のSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有)において不動産評価損245百万円、貸倒引当金繰入457百万円を計上

※3 SBIホールディングスにおいて、たな卸不動産評価損 393百万円、セムコーポレーションにおいて貸倒引当金繰入 120百万円を計上

※4 SBIイコールクレジットにおいて、貸倒引当金繰入465百万円を計上

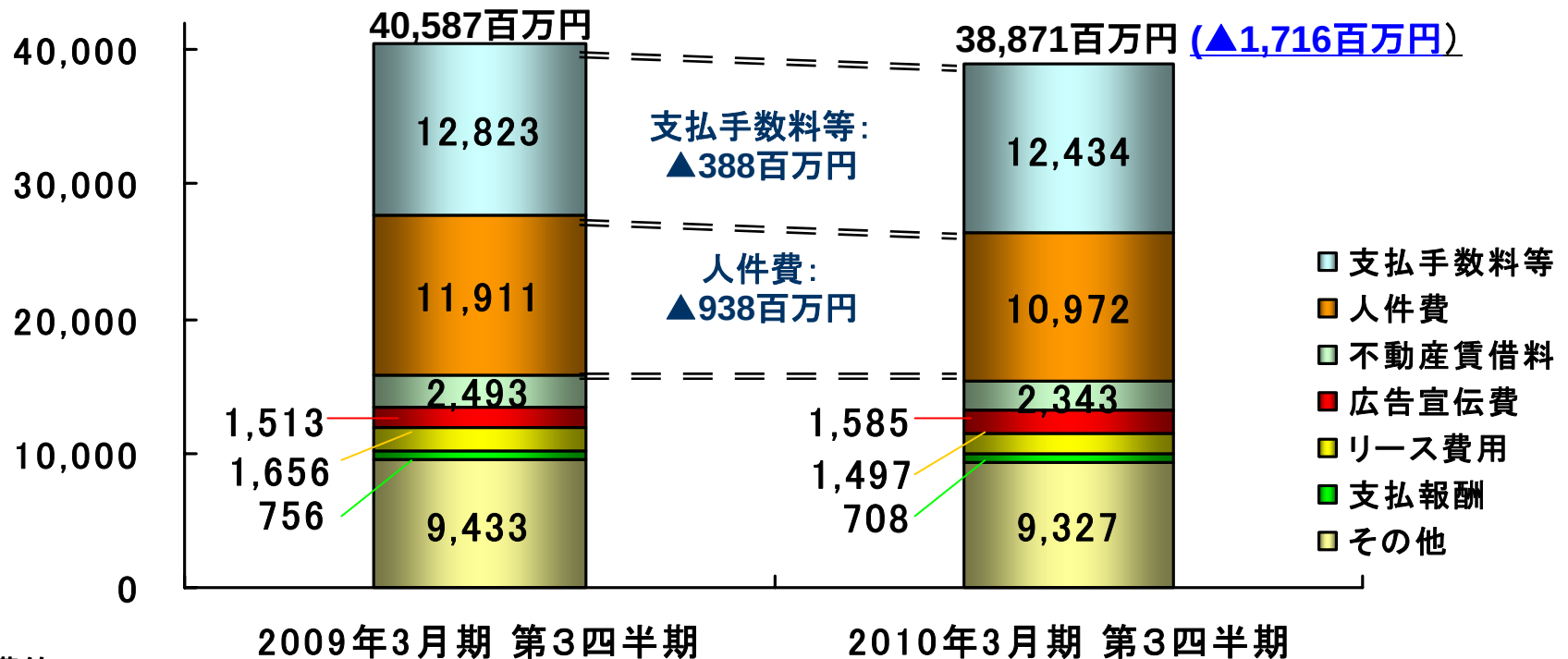
販売費及び一般管理費の推移(連結)

08年10月より各社で経費削減担当者を設置し経費削減を強化。
販売費及び一般管理費は、前年同期比で650百万円の減少に。

	2009年3月期 第3四半期(08年4-12月)	2010年3月期 第3四半期(09年4-12月)	前年同期比 増減額
販売管理費合計	47,200	46,550	▲650

(単位: 百万円)

販売管理費(償却費及び引当金繰入を除く)



償却費等

のれん償却、固定資産償却費
貸倒引当金繰入 他

6,612百万円

7,679百万円 ※

※増加要因の大半は 08年8月のSBI証券完全子会社化に伴い新たに発生したのれん償却

社債の償還について

2008年4月以降に償還を終えたSBIホールディングスの社債

	金額(億円)	償還
無担保普通社債	500.0	2008年9月
2008年満期円建転換社債型新株予約権付社債	59.4	2008年11月
2009年満期円建転換社債型新株予約権付社債	114.8	2009年4月
無担保普通社債	300.0	2009年9月
『第1回 SBI債』(ユーロMTN)	45.0	2009年10月
『第3回 SBI債』(ユーロMTN)	55.0	2009年10月



計: **1,074.2億円**

ユーロMTNプログラムに基づく社債の発行残高: 800億円

(1月26日発行の100億円を含む)

2009年12月末現預金残高(連結ベース): 1,466億円

2009年12月末時点の自己資本比率は29.9%(証券会社特有の資産・負債勘定の影響を考慮した実質的な数値: 46.2%)となっており、財務健全性は引き続き堅持

(2) 主要ビジネスラインの概況

アセットマネジメント事業

2010年3月期 第3四半期累計
売上高 150億円(前年同期比 19%増)
営業利益25億円(同 24%増)

主な連結子会社等

- SBIインベストメント
- SBIキャピタル
- SBIキャピタルソリューションズ
- SBIアセットマネジメント

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

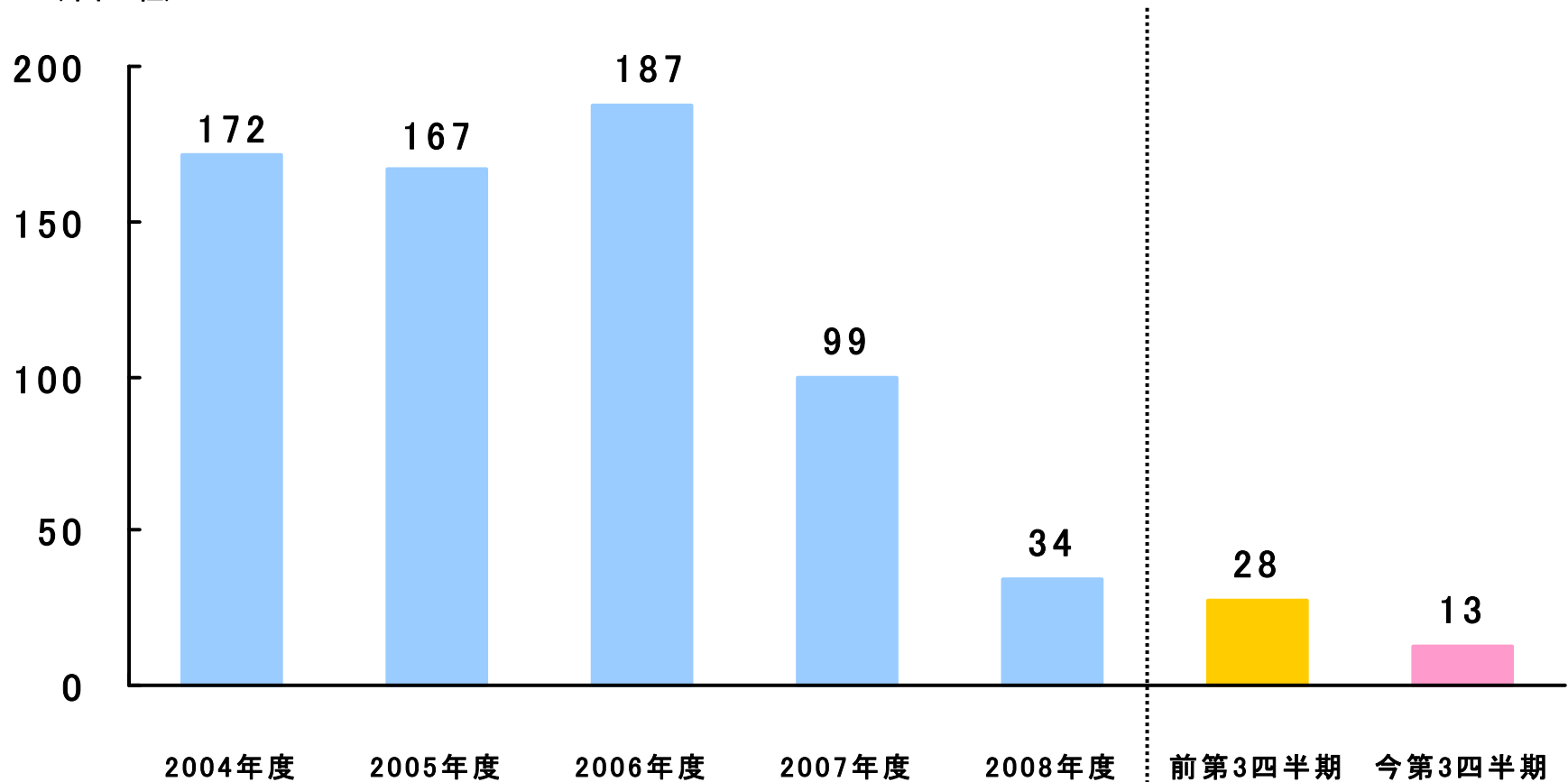
アセットマネジメント事業のハイライト

- I 国内IPO件数が伸び悩み、同業のジャフコが第3四半期累計で約24億円の営業赤字を計上するなど厳しい事業環境が続く中、収穫期を迎えているNew Horizon Fund が当第3四半期(10月～12月)において、3億円の営業利益貢献となり、当社アセットマネジメント事業の当第3四半期累計の営業黒字は25億円(前年同期比24%増)となった。
- II 投資実行額は当第3四半期(2009年10月～12月)に144億円。11月にはSBI Value Up Fund 1号から投資するナルミヤ・インターナショナルについて、TOBを実施。高度成長を続ける中国での事業展開により収益力の向上と投資リターンの確保を目指す。また、アジアの成長力をSBIの成長力へつなげるべく、海外の有望企業に対しても引き続き積極的に投資を行っていく。
- III 当第3四半期(2009年10月～12月)には運用ファンドを含む当企業グループの投資先から、IPOが2件・M&Aが3件が実現し、当期累計で8件のEXITが実現した。世界的に株式市況の回復が見られることに加え、New Horizon Fund は約44億円の含み益を有しており、今後の米ドルや人民元、中国の株式市況の動向を見ながら適切な売却時期を判断していく。

国内の新規上場会社数の推移

2008年度の上場会社数は2007年度を大きく下回る34社で着地。
今年度第3四半期でも、前年同期を大きく下回る13件となり低調に推移している。

(単位:社)



出所:各取引所

主要VCとの業績比較

JAFCOと当社アセットマネジメント事業の 2010年3月期第3四半期累計業績

(単位: 億円、%)

	売上高	前年同期比 増減率	営業利益	前年同期比 増減率
SBI アセットマネジメント事業	150	+18.9	25	+24.2
JAFCO (※自己持ち分方式)	124	▲31.0	▲24	－ (注2)

<参考: 2009年3月期通期業績>

	売上高	前期比 増減率	営業利益	前期比 増減率
SBI アセットマネジメント事業	160	▲72.5	26	▲84.3
JAFCO (※自己持ち分方式)	214	▲46.8	▲94	－ (注3)

(注1) JAFCOは自己持ち分方式で開示、当社は決算に採用しているファンド連結後の数値です。

なお、JAFCOの2010年3月期第3四半期累計の最終損益は▲11億円、2009年3月期通期の最終損益は▲170億円です。

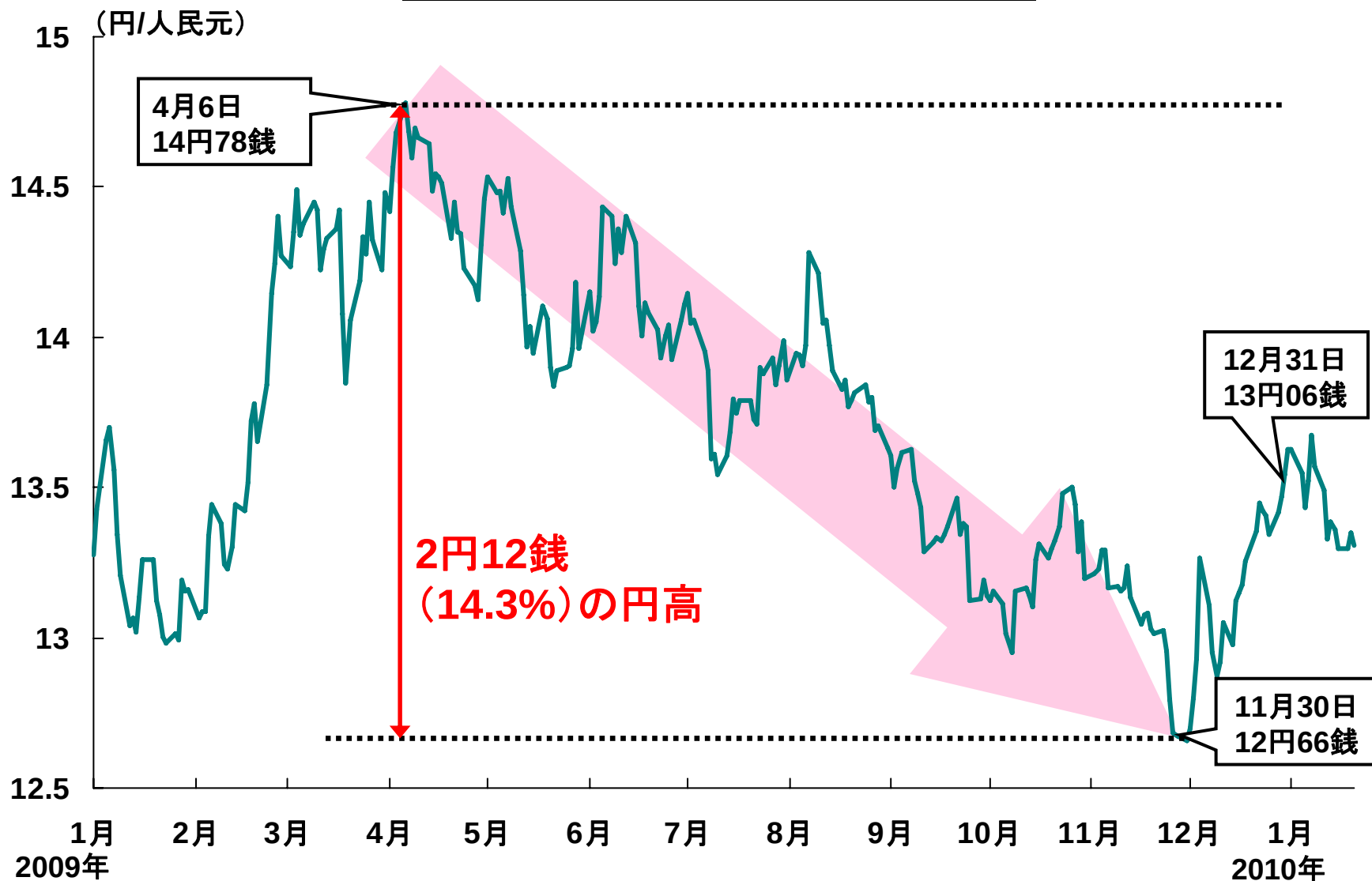
(注2) 前年同期の営業利益は▲10億円となっております。

(注3) 2009年3月期の営業利益は▲42億円となっております。

(注4) 億円未満を四捨五入して表示しております。

含み益を有する中国株の売却判断に 影響を与えた円高トレンド

円－人民元為替レート推移



アセットマネジメント事業における IPO・M&A実績

国内のIPOマーケットは低調ながらも、2社のIPOが実現。
海外でも、経済成長著しい新興国に積極的な投資をした成果が結実しつつある。

事業開始からの通算EXIT率は17.5%(累計EXIT社数119 / 累計投資先社数679)に

	1999年7月の事業開始から 2008年3月期まで	2009年3月期 通期実績	2010年3月期 第3四半期までの実績
IPO・M&A 社数	111	0	※ 8

第3四半期末までに以下の8社がIPO・M&Aに至っております

			ロックアップ期限
6月23日	GCL Solar Energy Technology Holdings Inc.	(M&A) ※	2010年1月28日まで
6月30日	China Cord Blood Services Corporation	(M&A)	2010年6月30日まで
7月29日	BBMG Corporation	(香港) ※	非流通株
10月21日	Windrace International Company Limited	(M&A) ※	2010年3月31日まで
10月23日	(株)デ・ウエスタン・セラピテクス研究所	(ジャスダックNEO)	2010年7月24日まで
11月10日	Helixir Co.,Ltd. (KOSDAQ上場のViroMed 社と合併)	(M&A)	2010年11月10日まで
11月20日	(株)エフオーアイ	(東証マザーズ)	2010年5月20日まで
11月20日	テクモウェーブ(株)	(M&A)	なし

※ LP出資しているNew Horizon Capital(2号ファンド) に組入れられている銘柄からのExit社数(3社)を含みます。

継続的に収益に貢献するNew Horizon Fund(1号ファンド)

- 比較的簿価の低いNew Horizon Fundは、中国株式市場が大きく回復する中で、継続して保有株の売却を実施
- 2009年度1-3Q累計で**72億円の株式売却**を行い**19.7億円の営業利益**を計上
- 増資手続きに伴って売却を保留してきたZoomlion社は、当局手続きが完了する2月末～3月に売却再開の見通し

New Horizon Fund(1号ファンド)の保有株式売却額 (単位:百万円)

2010年3月期	Meifeng	Zoomlion	Goldwind	Kingsoft	合計
第1四半期	–	865	1,615	1,436	3,917
第2四半期	1,005	916	184	267	2,372
第3四半期	911	–	–	–	911
3四半期累計	1,916	1,781	1,799	1,703	7,200

1月26日現在、当社持分で**約44億円の含み益**※を有しており、
最良の売却タイミングを見計らって利益極大化を図る

2010年3月期 第3四半期の投資実行額

～投資会社として日本で最も活発な投資実行を継続～

単位: 百万円
(投資会社数)

	投資実行額			
	当3Q (10月～12月)	当3Q累計 (4～12月)	(参考) 前3Q累計	(参考) 前通期累計
【ファンドによる投資分】	11,971 (50社)	41,367 (107社)	59,307 (81社)	82,013 (105社)
内 株式等	4,922 (28社)	14,536 (70社)	17,053 (41社)	26,277 (57社)
内 その他 (社債等)	7,048 (22社)	26,831 (37社)	42,254 (40社)	55,736 (48社)
【直接投資分】	2,482 (6社)	4,271 (11社)	12,801 (13社)	13,165 (13社)
内 株式等	2,422 (5社)	3,112 (9社)	11,224 (11社)	11,224 (11社)
内 その他 (社債等)	60 (1社)	1,159 (2社)	1,577 (2社)	1,940 (2社)
【合 計】	14,454 (56社)	45,639 (118社)	72,109 (94社)	95,179 (118社)
【比較: JAFCO】	1,925 (17社)	13,050 (77社)	28,137 (82社)	32,546 (106社)

注) 1社に対し各第1、第2、第3四半期にわたって複数回投資実行した場合は、累計において1社とカウントし重複を排除しています。
(データ出所: 各社開示資料より当社にて集計)

グループ運用資産総額の状況

2009年12月末現在5,437億円(住宅不動産関連セグメント等を含む)

プライベート・エクイティ等 2,685億円

〔IT・バイオ等〕 合計 1,248

インターネット	38
ブロードバンド・メディア	551
モバイル	276
バイオ・その他 ※1	382

〔環境・エネルギー ※2〕 83

〔直接投資〕 276

〔バイアウト・メザニン〕 合計 379

バリュウアップ	192
メザニン ※2	187

〔海外〕 合計 699

中国・香港・その他 ※2	395
ベトナム	78
インド	95
ハンガリー	130

〔投資信託等〕 2,170億円

投資信託	408
投資顧問	1,746
投資法人	16

〔不動産等〕 582億円

開発物件	258
稼働物件	325

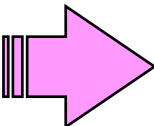
不動産は投資総額、投資信託・投資顧問等は2009年12月末の時価純資産、その他ファンドは2009年12月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載。億円未満は四捨五入。

※1 2009年9月29日に(株)HIKARI プライベート・エクイティから業務執行権を譲り受けたファンド及び、2009年10月1日に子会社化した(株)トランスサイエンスが運用するファンドを含みます。

※2 決算期を迎えていないものについては、出資約束金額ベースで算出。

今期の IPO・M&A 見込み

第4四半期には新たに4社、今期合計で12社のIPO・M&Aを見込む。
第4四半期に見込む4社のうち3社はすでに上場申請中であり、1社はM&Aについて合意に至っている。来期以降にスケジュールが変更になったものもあり、国内・海外ともにインキュベーションは順調に進捗している。

	2010年3月期 第3四半期までの実績			今期の着地見込み	
※1 IPO・M&A 社数	8			12	
第4四半期には合計4社のIPO・M&Aを見込む				ロックアップ期限	
1月18日	Ku6 Holdings Limited	(M&A)	2010年7月17日まで		
3月3日	アニコム ホールディングス(株)	(東証マザーズ)承認済	なし		

上記のほかに2社のIPOを見込んでおります。

※1 LP出資しているNew Horizon Capital(2号ファンド) に組入れられている銘柄からのExit社数(4社)を含みます。なお、4社のうち3社はExitしており、さらに第4四半期に1社のExitを見込んでおります。

※2 IPO予定件数は、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。尚、過去実績のIPO・M&A社数はすでに売却済みのものを含みます。

証券関連事業

2010年3月期 第3四半期累計
売上高 382億円(前年同期比 1%増)
営業利益 78億円(同 60%増)

主な連結子会社等

- SBI証券
- SBIリクイディティ・マーケット
- SBIジャパンネクスト証券(持分法適用)

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

I 圧倒的顧客基盤を有するSBI証券

前年同期には売却したE*TRADE Koreaの業績(営業収益:32億円、営業利益:11億円)が含まれていたため、営業収益は前年同期比5.5%減の352億円となったが、引き続きFX取引が好調に推移していることから、営業利益は前年同期比25.4%増の101億円となった。

なお前年同期においてE*TRADE Koreaの業績を考慮しない場合、連結の営業収益は前年同期比3.2%増、営業利益は同45.8%増となる。

- 口座数は2009年12月29日にオンライン証券で初めて200万口座を突破し、圧倒的顧客基盤を確保
- 2010年3月期第3四半期累計では、個人株式委託売買代金シェアは35.5%、個人信用取引委託売買代金シェアは39.8%と引き続き同業他社を圧倒

II 営業開始(2008年11月17日)から短期間で収益に大きく貢献している SBIリクイディティ・マーケット

営業開始から短期間で取引を急拡大させ、2010年3月期第3四半期累計の売上高は81.5億円、営業利益は24.5億円。

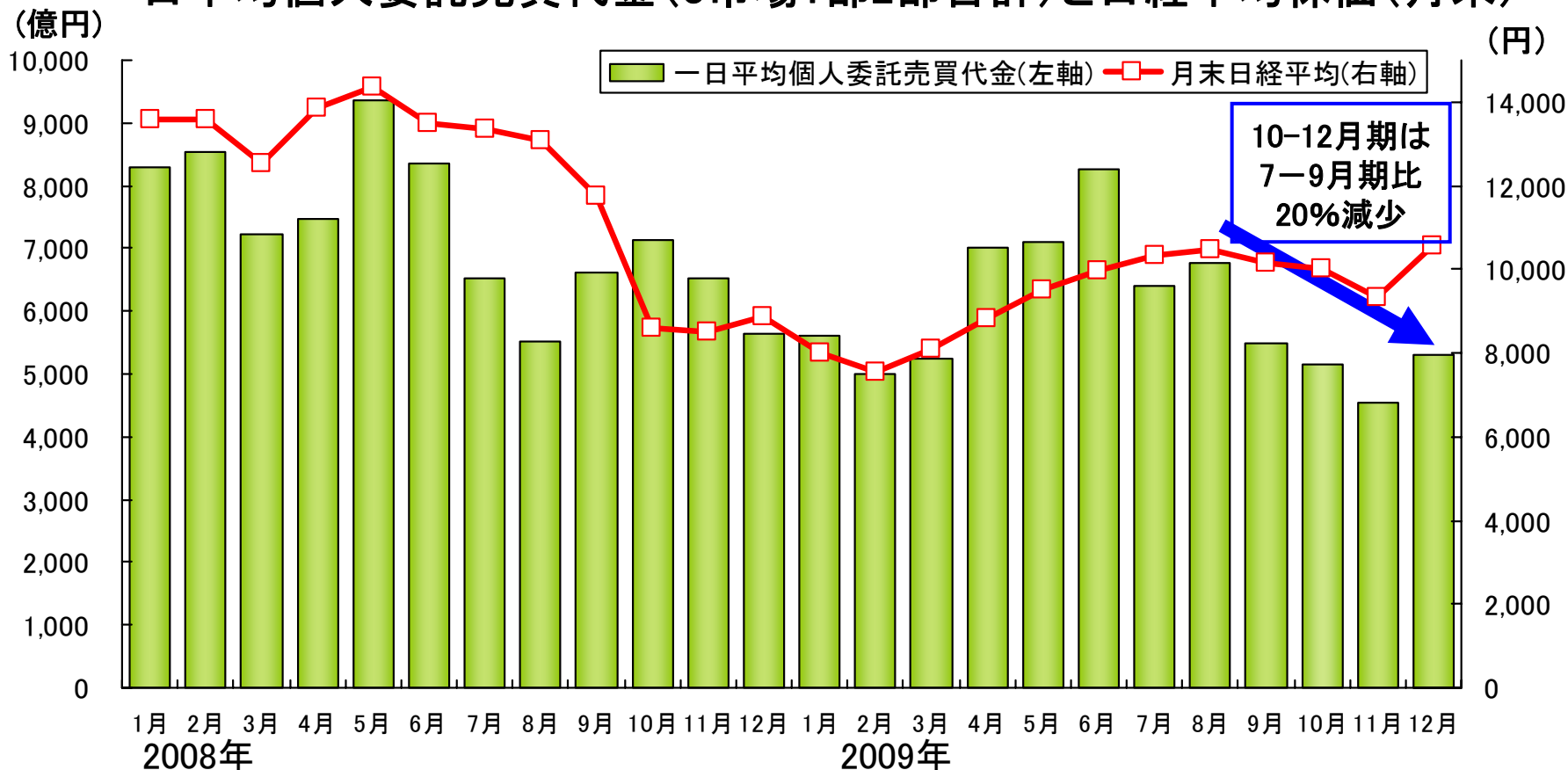
- SBI FX α の2009年12月の月間売買代金は4兆2,462億円となり、引き続き高水準を維持
- 昨年8月3日の日興コーディアル証券に続き、2010年1月18日より住信SBIネット銀行が接続
- 今年度に入り新たに5行(みずほコーポレート銀行、香港上海銀行、カリヨン銀行、バンク・オブ・アメリカ、クレディ・スイス銀行)がカウンターパーティーとして参加し計17金融機関に。他にも2金融機関と交渉中。

III 昼間取引の開始により順調に取引量を拡大しているジャパンネクストPTS

2008年10月の昼間取引開始以降順調に取引量を拡大しており、1年後の2009年10月の1日当たり売買代金は前年同月の約5.4倍となる95億円超に。

2009年度第3四半期(9-12月)に 売買代金が減少した日本の株式市場

一日平均個人委託売買代金(3市場1部2部合計)と日経平均株価(月末)



- 2009年の一日平均個人委託売買代金は6月の8,253億円をピークに減少し、11月には4,543億円まで落ち込んだものの、12月には若干の回復を見せる。
- 日経平均株価は12月にかけて上昇し、12月末には10,546.44 円に。

2010年3月期第3四半期累計 SBI証券連結業績

2009年3月期第2四半期まではE*TRADE Koreaの業績が含まれており、
前年同期比減収となっている。

(単位: 百万円、%)

	2009年3月期 3Q累計※1 (2008年4月～2008年12月)	2010年3月期 3Q累計 (2009年4月～2009年12月)	前年同期比 増減率
営業収益	37,226	35,162	▲5.5
純営業収益	33,156	32,359	▲2.4
営業利益	8,017	10,054	+25.4
経常利益	8,008	10,071	+25.8
当期純利益	※2 9,337	5,960	▲36.2

※1 E*TRADE Koreaの業績を含む

(営業収益 3,171百万円、純営業収益2,866百万円、営業利益 1,121百万円、経常利益1,135百万円、四半期純利益818百万円)

※2 E*TRADE Korea 株式の売却に伴い、2009年3月期第2四半期に特別利益99億円を計上。

＜参考＞2010年3月期第3四半期累計 E*TRADE Koreaの業績・売却益控除後連結業績試算

(単位: 百万円、%)

	2009年3月期 3Q累計 (2008年4月～2008年12月)	2010年3月期 3Q累計 (2009年4月～2009年12月)	前年同期比 増減率
営業収益	34,057	35,162	+3.2
純営業収益	30,291	32,359	+6.8
営業利益	6,895	10,054	+45.8
経常利益	6,872	10,071	+46.5
当期純利益	2,853	5,960	+108.9

※ E*TRADE Koreaの業績ならびにE*TRADE Korea株式売却に伴う特別利益等控除後

2010年3月期第3四半期累計 SBI証券単体業績

FX取引の拡大によるトレーディング収益の増加等により、
増収・営業増益となる

(単位: 百万円、%)

	2009年3月期 3Q累計 (2008年4月～2008年12月)	2010年3月期 3Q累計 (2009年4月～2009年12月)	前年同期比 増減率
営業収益	33,941	34,840	+2.6
純営業収益	30,229	32,092	+6.2
営業利益	6,899	10,005	+45.0
経常利益	6,876	10,027	+45.8
当期純利益	※1 11,619	5,944	▲48.8

※1 E*TRADE Korea 株式の売却に伴い、2009年3月期第2四半期に特別利益142億円を計上。

なお、E*TRADE Korea株式売却による特別利益を除くと、2009年3月期第3四半期累計の四半期純利益は3,192百万円となり、当第3四半期累計の四半期純利益は前年同期比86.2%増となる。

主要オンライン証券の 2010年3月期第3四半期累計・連結業績比較

- 2009年3月期第3四半期にはE*TRADE Koreaの業績(営業収益3,171百万円、営業利益1,121百万円)が含まれることから、連結では前年同期比で減収となっているものの、FX取引の好調から営業増益。
また単体では増収・営業増益を達成。
- 営業収益、営業利益ともに同業他社を大きく上回る

主要オンライン証券各社の2010年3月期第3四半期累計連結業績 (単位:百万円、%)

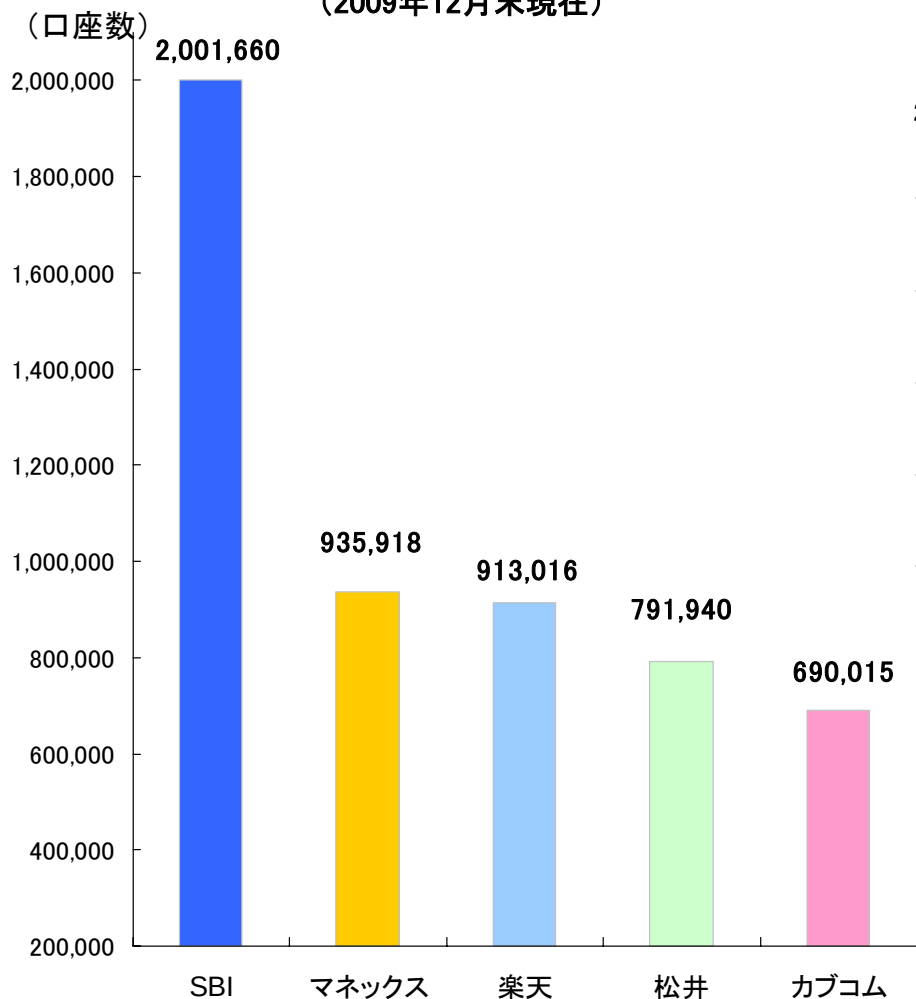
	営業収益	前年同期比 増減率	営業利益	前年同期比 増減率
SBI証券連結	35,162	▲5.5	10,054	+25.4
うち、SBI証券単体	34,840	+2.6	10,005	+45.0
楽天(非連結)	17,322	▲3.3	4,751	+16.8
マネックス	16,698	▲16.0	3,984	▲17.2
カブドットコム(非連結)	11,697	▲11.7	3,940	▲21.6
松井	18,868	▲11.8	8,914	+3.7

主要オンライン証券の口座数比較

SBI証券は、オンライン証券で初めて口座開設数200万口座を突破

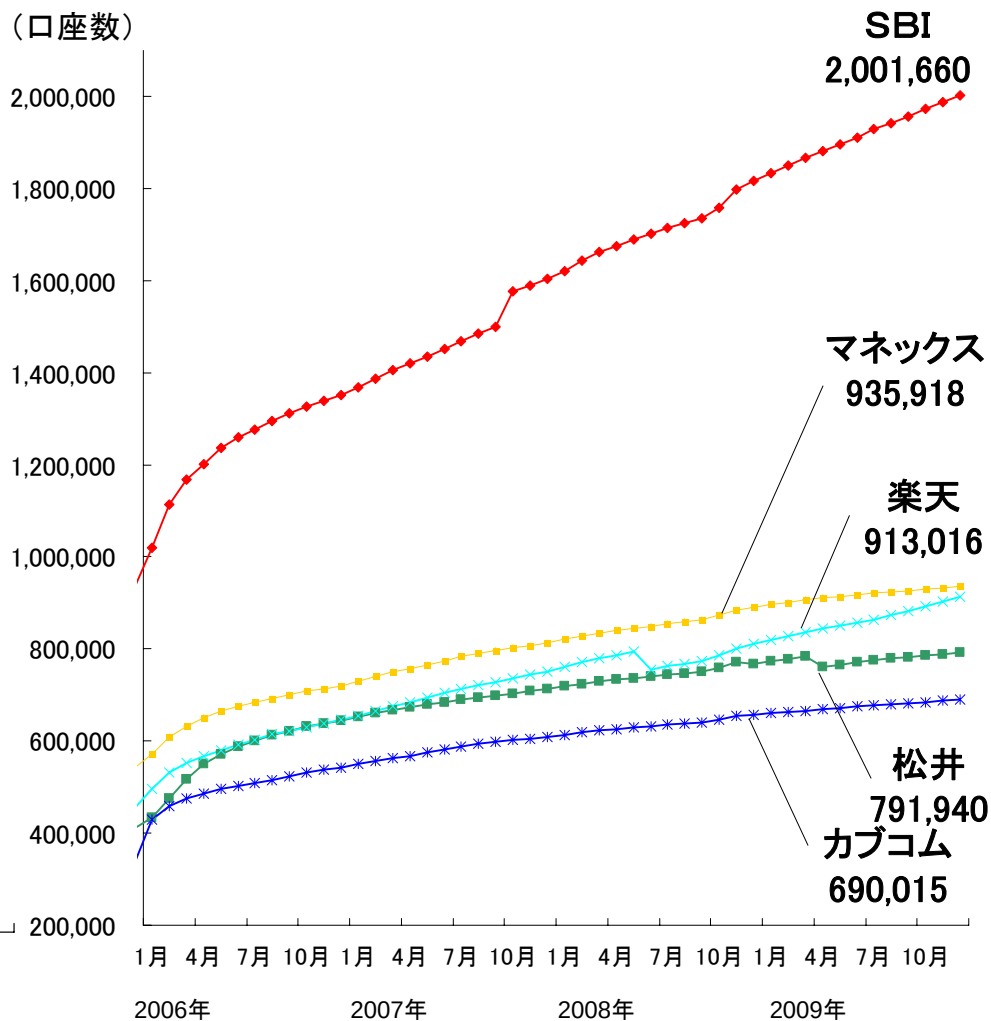
主要オンライン証券5社の口座数

(2009年12月末現在)



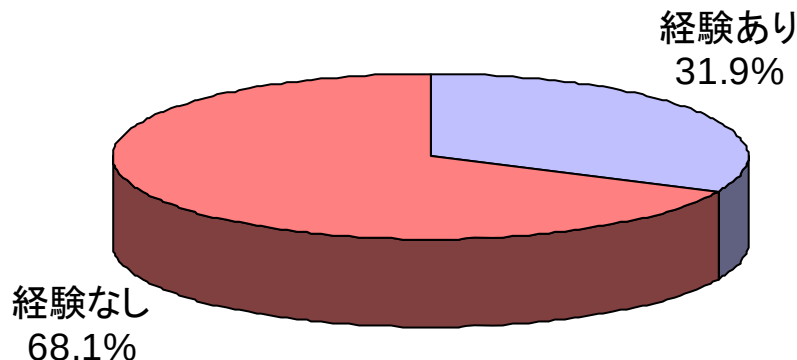
主要オンライン証券5社の口座数推移

(2009年12月末現在)



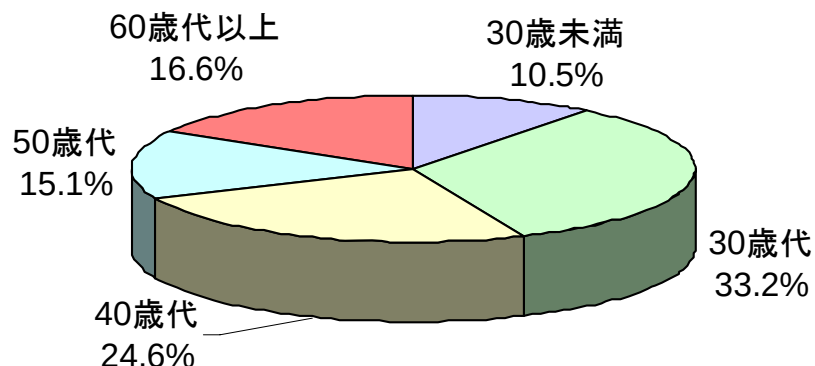
SBI証券は、投資経験の有無や世代・性別に関わらず幅広い支持を獲得

＜2009年度上半期(2009年4月～9月)にSBI証券で口座開設された方の株式投資経験有無の割合＞

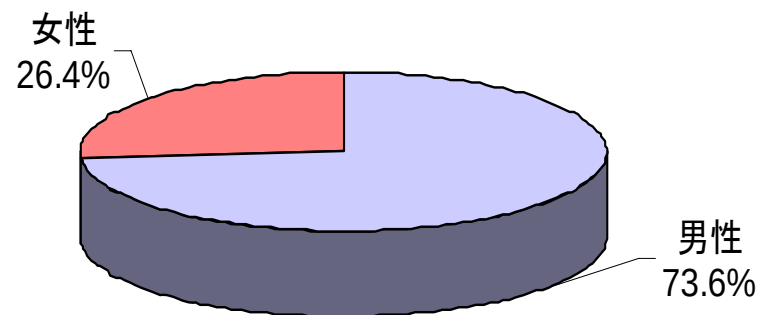


新規口座開設者の3分の2以上が、株式投資経験のなかった顧客であり、安価な手数料や豊富な品揃えなどが、株式投資をこれから始めようと考えている方々から多くの支持を得ていると考えられる。

＜SBI証券の2009年12月末における顧客属性＞
【年代別】



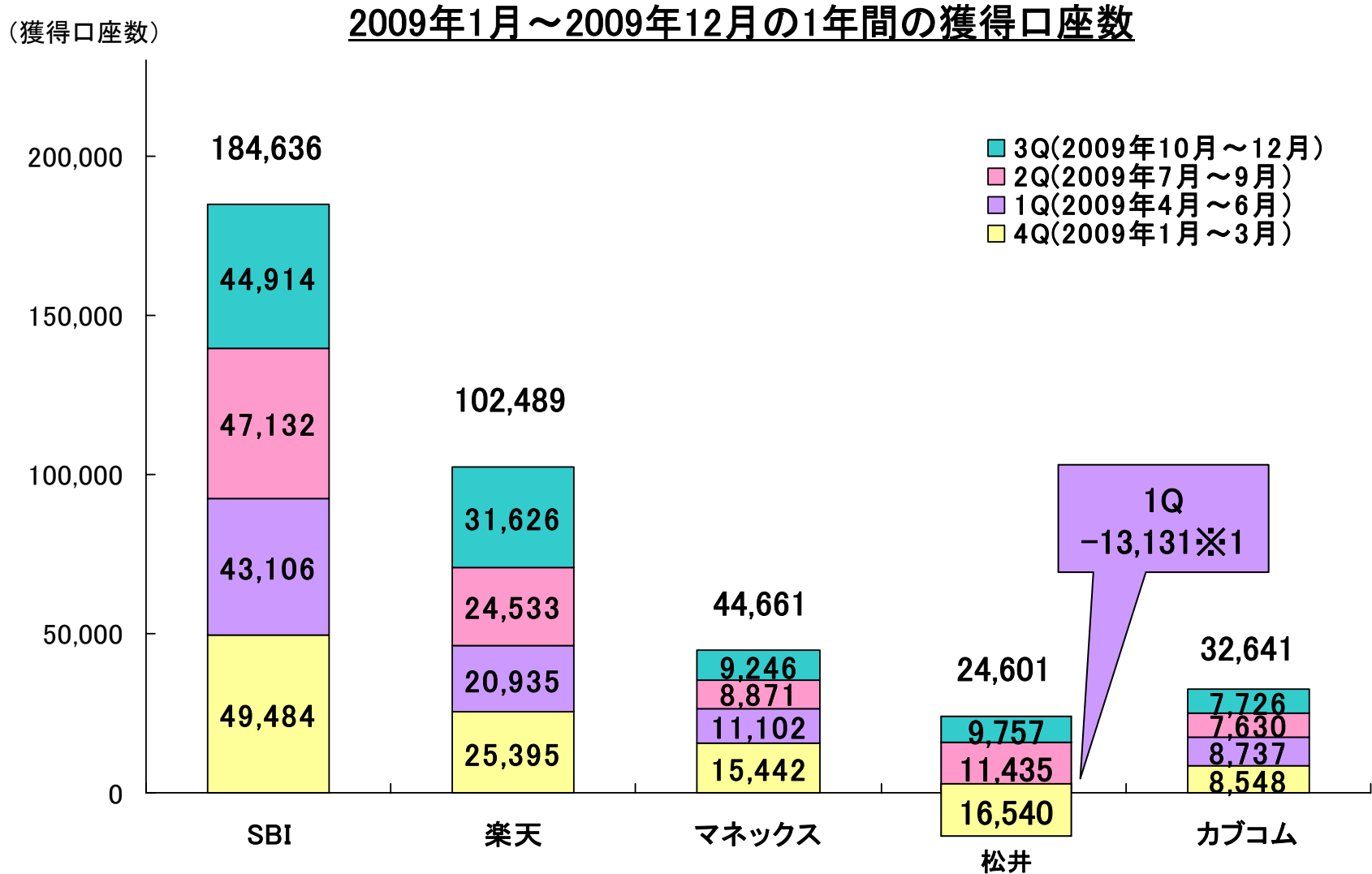
【性別】



以前は30歳代以下が50%を超えていたが、40歳代以上の比率が56.3%まで上昇

口座開設者に占める女性比率も徐々に上昇

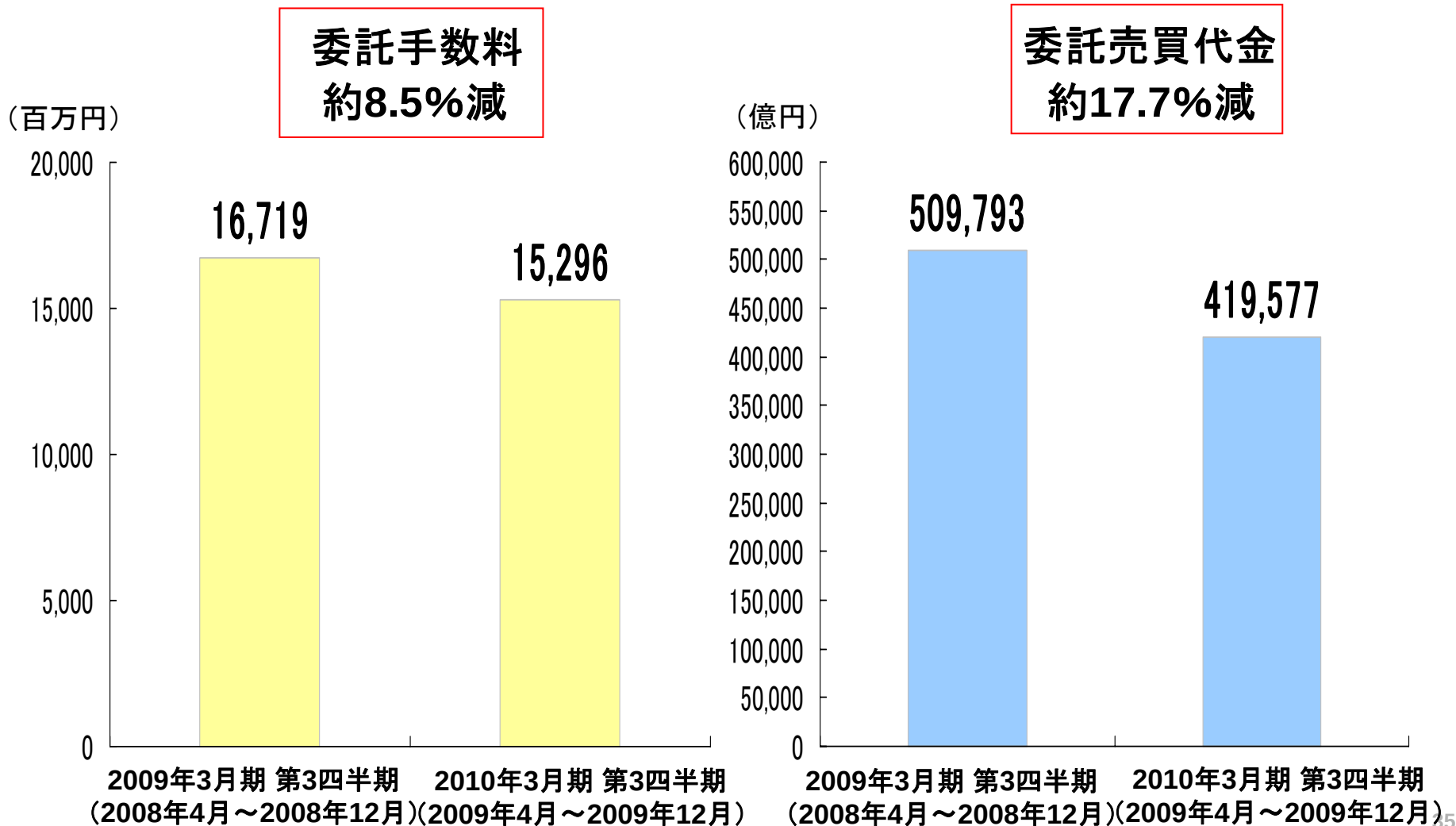
主要オンライン証券の獲得口座数比較



委託手数料収入ならびに委託売買代金の推移

(SBI証券単体)

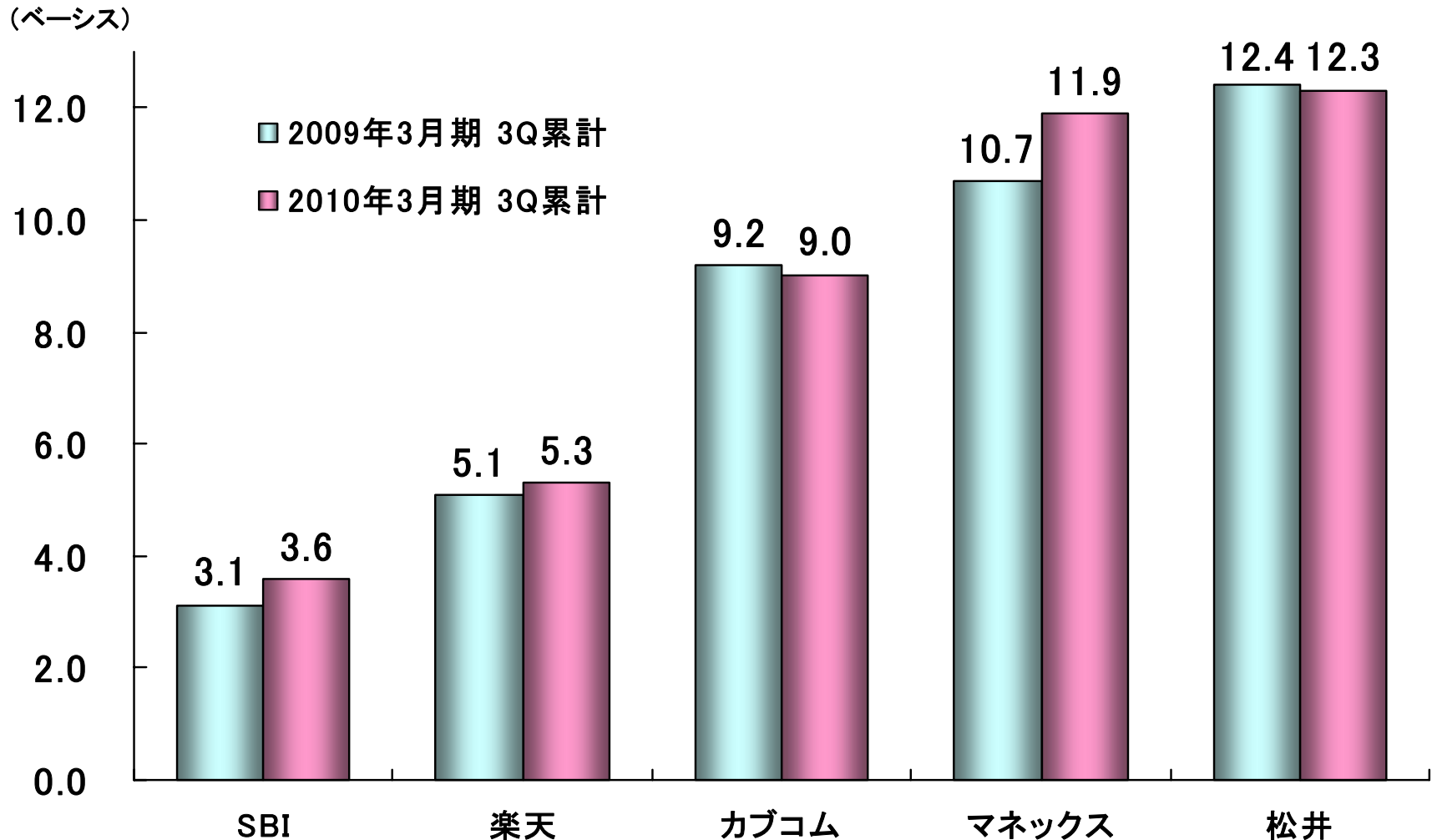
委託売買代金は前年同期比17.7%減ながら、委託手数料は8.5%減に止まる



主要オンライン証券のベースス比較

主要オンライン証券5社のベースス比較

(委託手数料÷委託売買代金)



出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成
委託手数料は決算短信より単体数値を使用
SBI証券はインターネット部門のみの数値を使用

3大証券会社との株式委託売買代金比較

各社の株式委託売買代金の推移

2005年3月期4Qに
野村證券を抜く

2010年3月期3Qにおける
委託売買代金及びシェア

〔野村證券、大和証券の数値は
2010年3月期2Q時点〕

SBI
11,609 (10.3%)
〔2010年3月期
2Qシェア: 10.4%〕

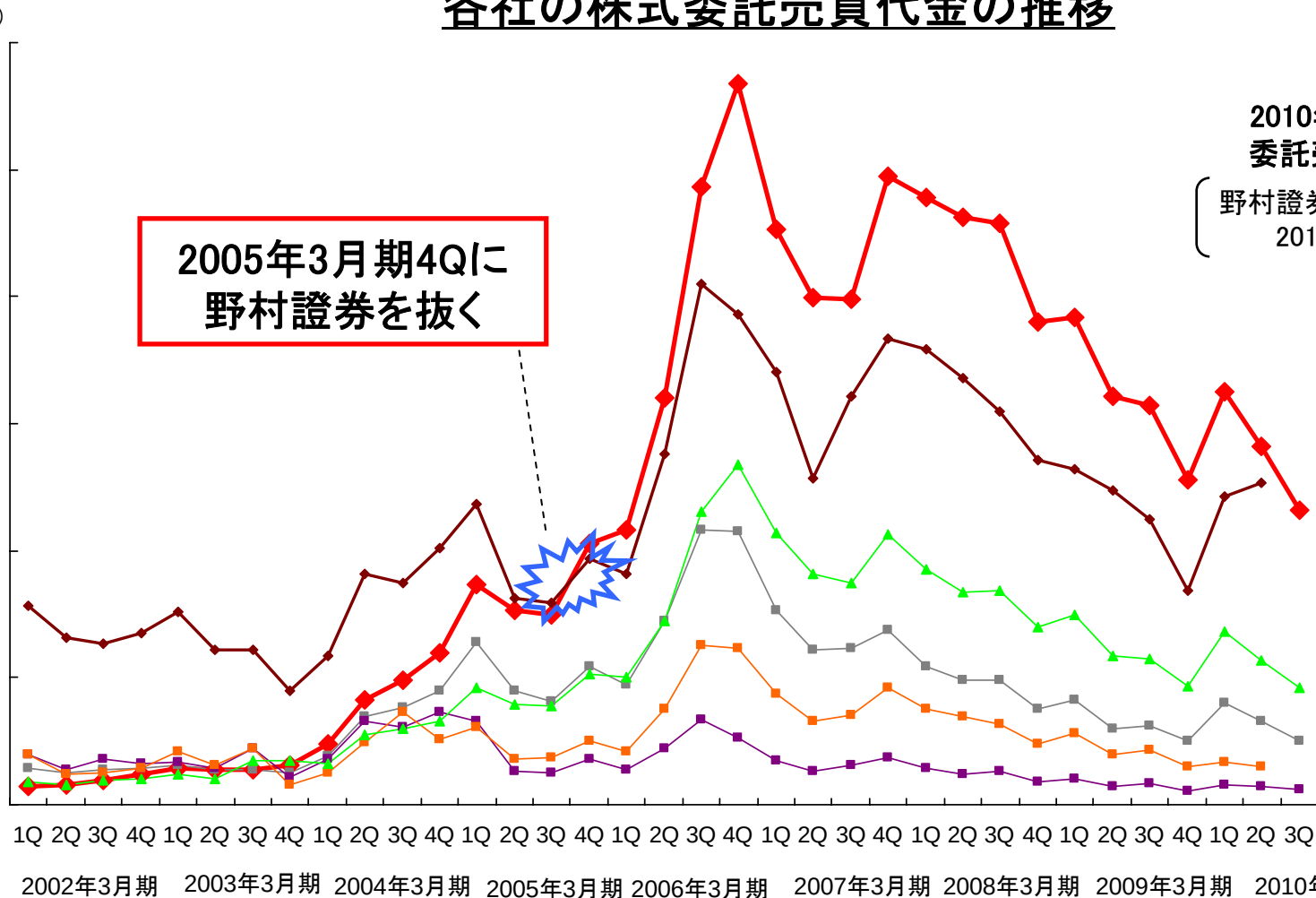
野村 12,698 (9.3%)

楽天 4,630 (4.1%)

松井 2,497 (2.2%)

大和証券 1,469 (1.1%)

日興コーポ 600 (0.5%)



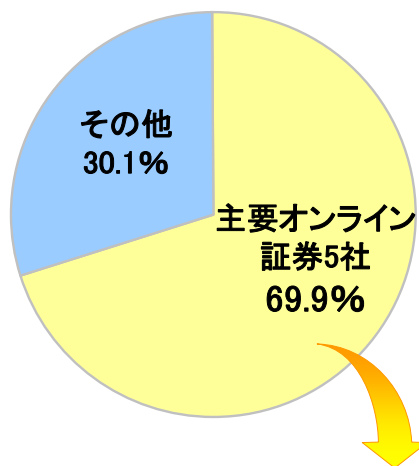
出所: 証券会社各社・東証の公表数値をもとに当社作成 (SBI証券分には海外投資家からの注文を含みます)

※大和SMBC、日興シティは2010年3月期より非開示

(単位: 10億円、括弧内各社委託売買
代金を3市場委託で除したシェア)

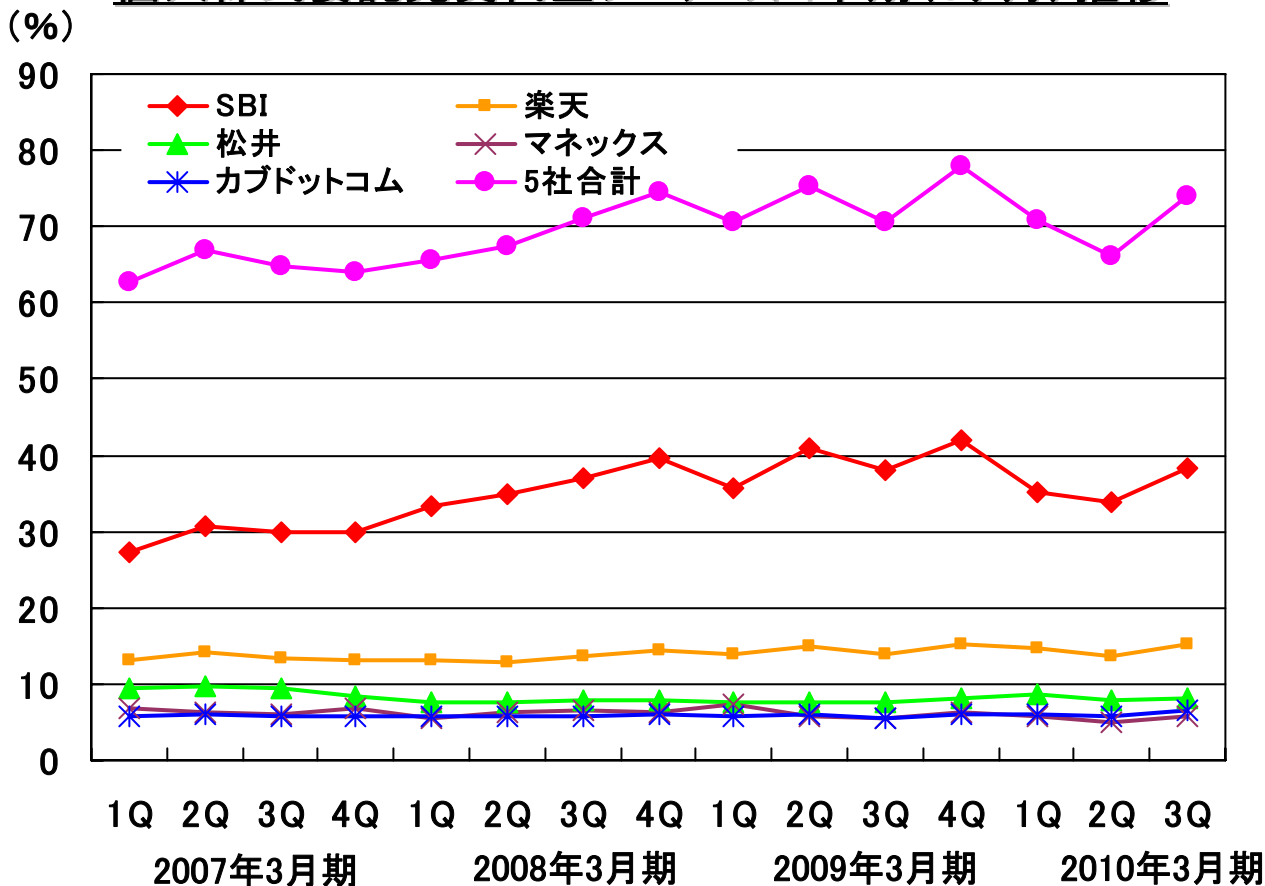
主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

2010年3月期 3Q累計シェア
(2009年4月～2009年12月)



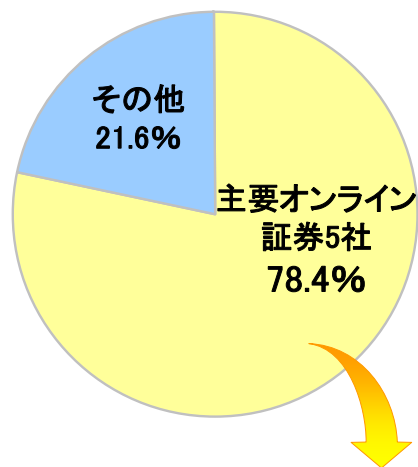
SBI証券	35.5%
楽天証券	14.5
松井証券	8.3
カブドットコム	6.0
マネックス	5.6

個人株式委託売買代金シェアの四半期(3ヶ月)推移



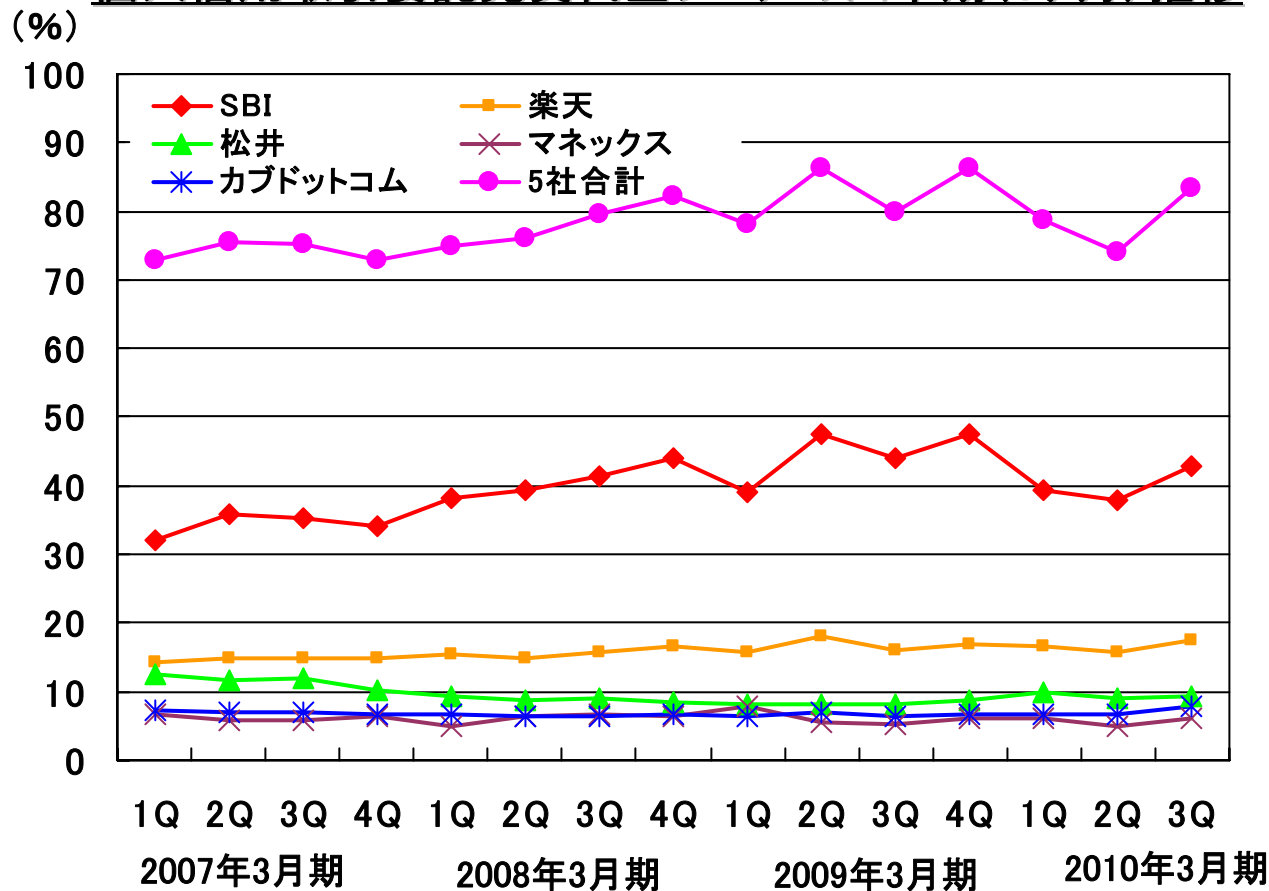
主要オンライン証券の個人信用取引委託売買代金シェア

2010年3月期 3Q累計シェア
(2009年4月～2009年12月)



SBI証券	39.8%
楽天証券	16.5
松井証券	9.3
カブドットコム	7.1
マネックス	5.7

個人信用取引委託売買代金シェアの四半期(3ヶ月)推移

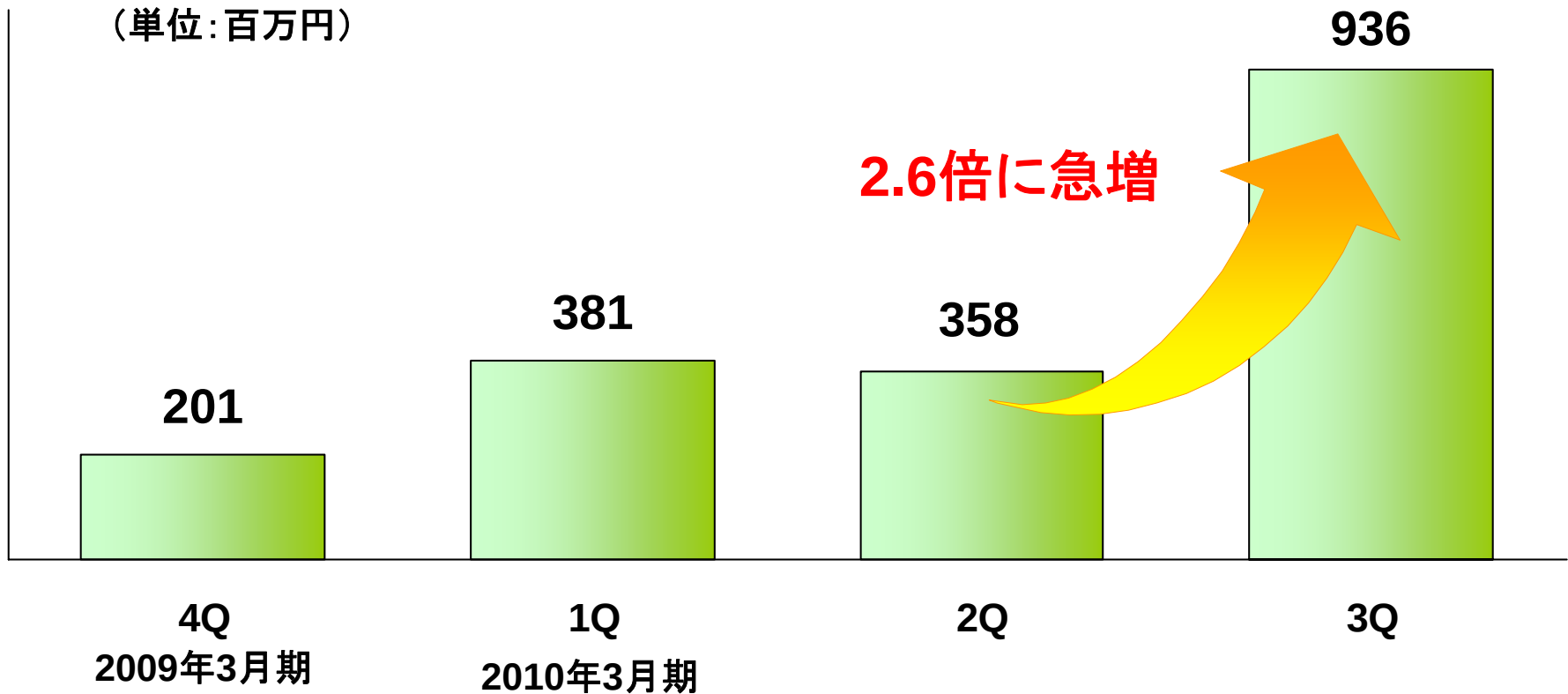


10月以降に急増した 手数料コストに敏感な投資家からの株券入庫

～野村證券とジョインベスト証券の11月23日付けの統合の発表(9月18日)が契機に～

SBI証券における一日平均株券入庫額(入庫額-出庫額)

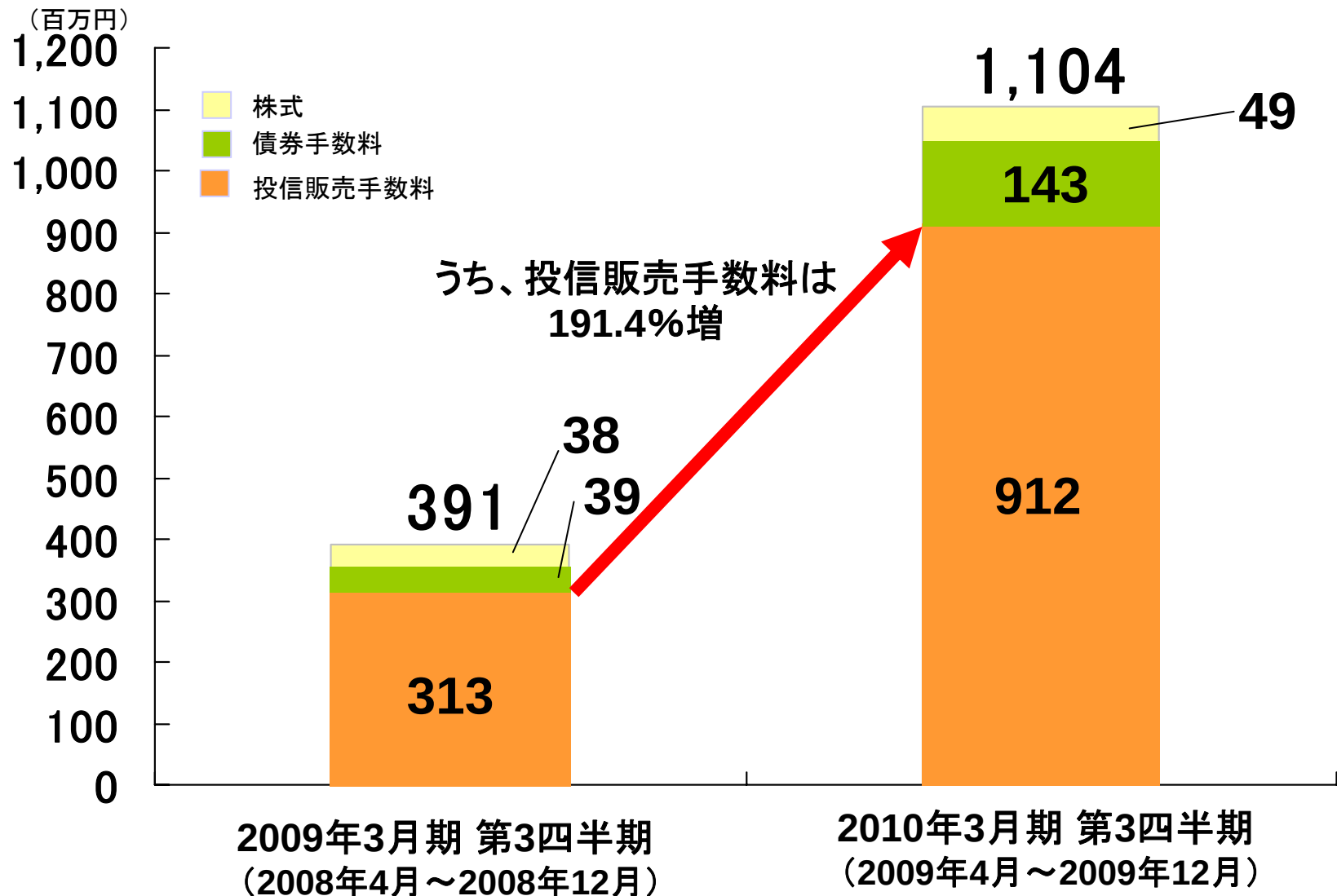
(単位: 百万円)



8月からの手数料引き下げも奏功し、10月に入り
ジョインベスト証券から多数の顧客がSBI証券に流入

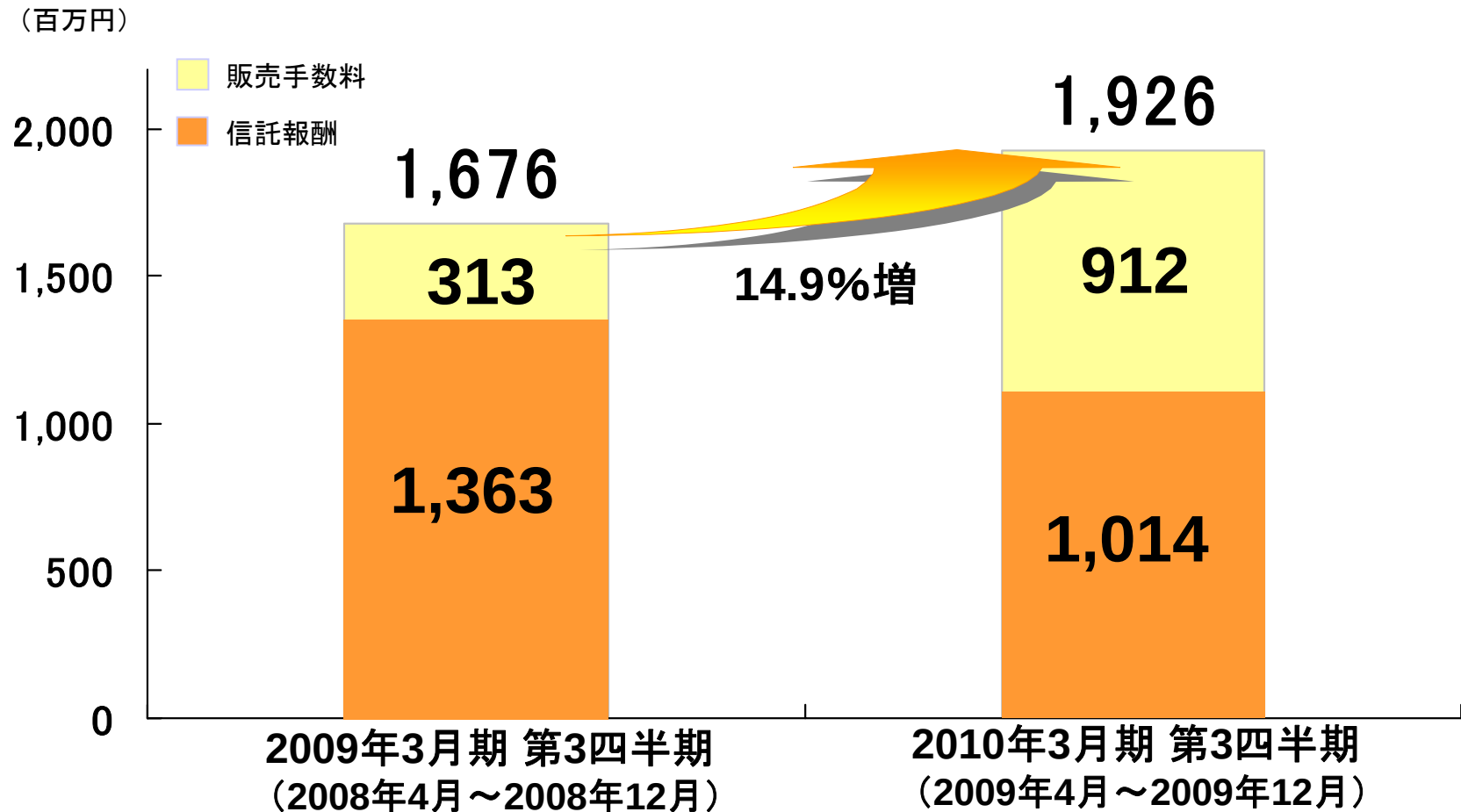
引受・募集・売出手数料(連結)

引受・募集・売出手数料は前年同期比182.4%増



投資信託関連収益の推移

MRFの信託報酬率の低下により信託報酬は減少したものの、販売手数料の増加により投資信託関連収益は前年同期比14.9%増



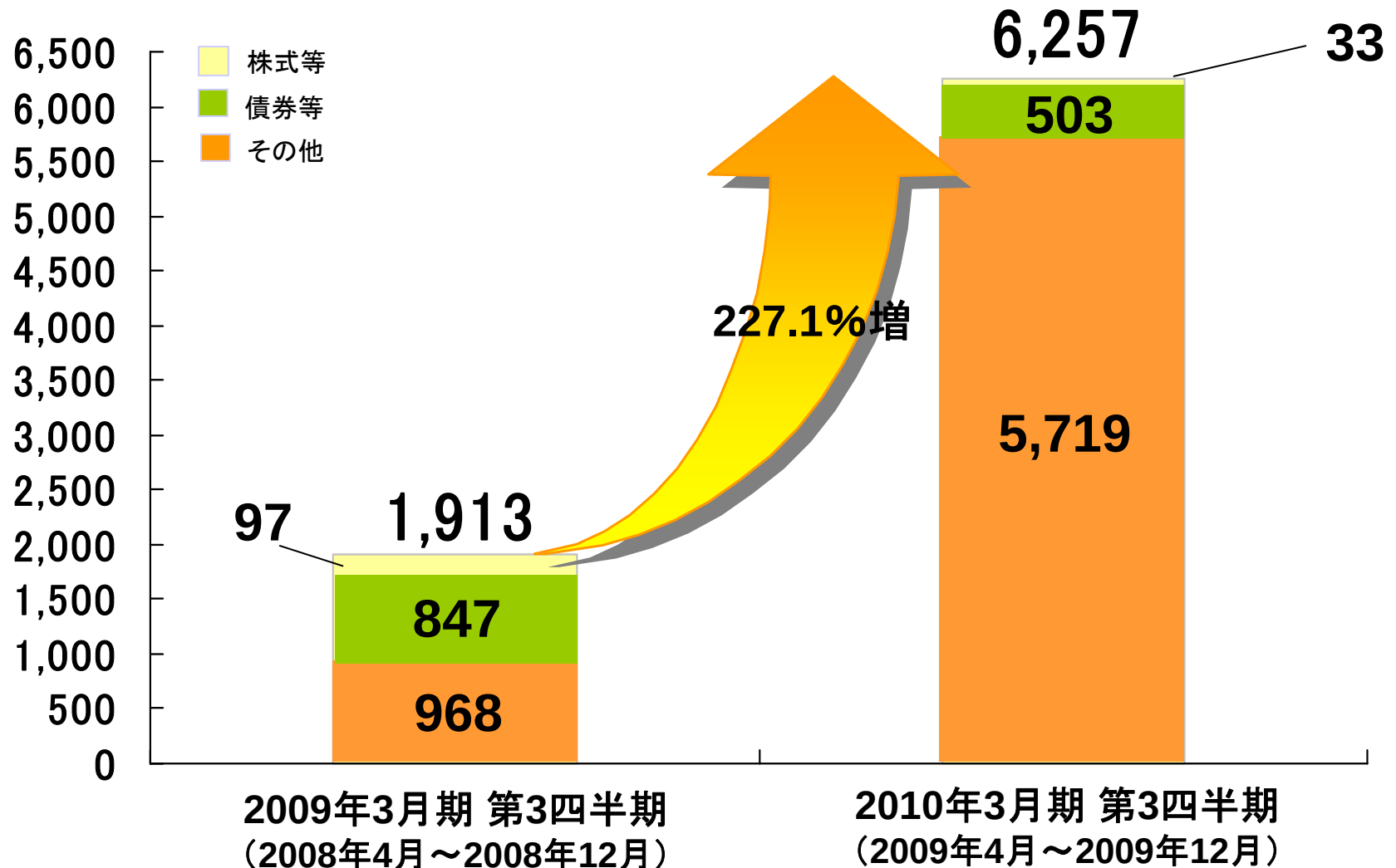
※1. 販売手数料及び信託報酬の合計(信託報酬には、MRFを含む。)

※2. 信託報酬は「その他の受入手数料」に含まれる

トレーディング損益の推移(連結)

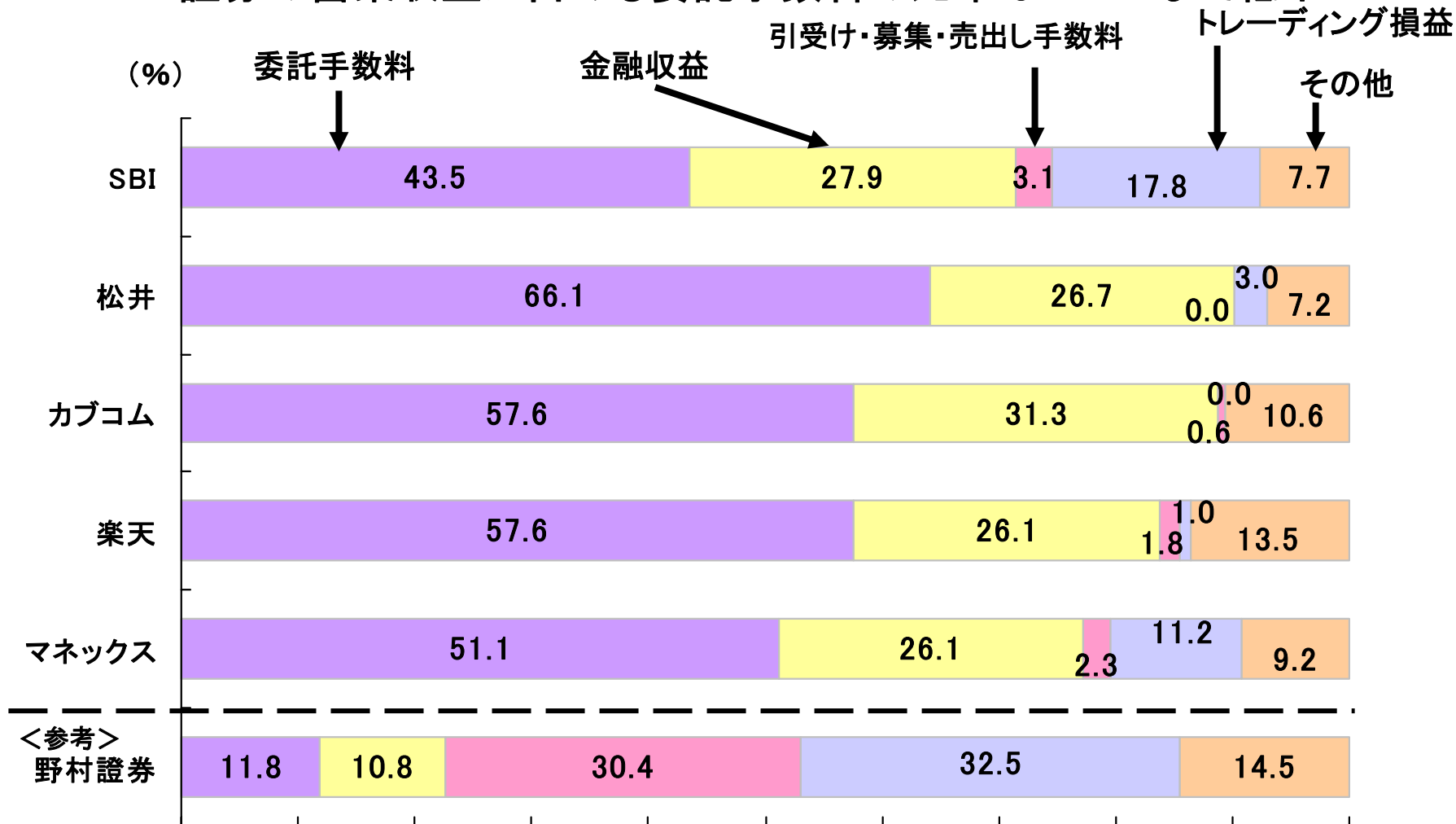
FX関連収益の増加により前年同期比227.1%の大幅増収

(百万円)



主要オンライン証券各社の 営業収益(連結)構成比

SBI証券の営業収益に占める委託手数料の比率は43.5%まで低下



※出所:各社ホームページ、決算資料(野村證券は国内基準の決算書より抽出)

※SBI証券以外2010年3月期中間期決算数値を元に作成

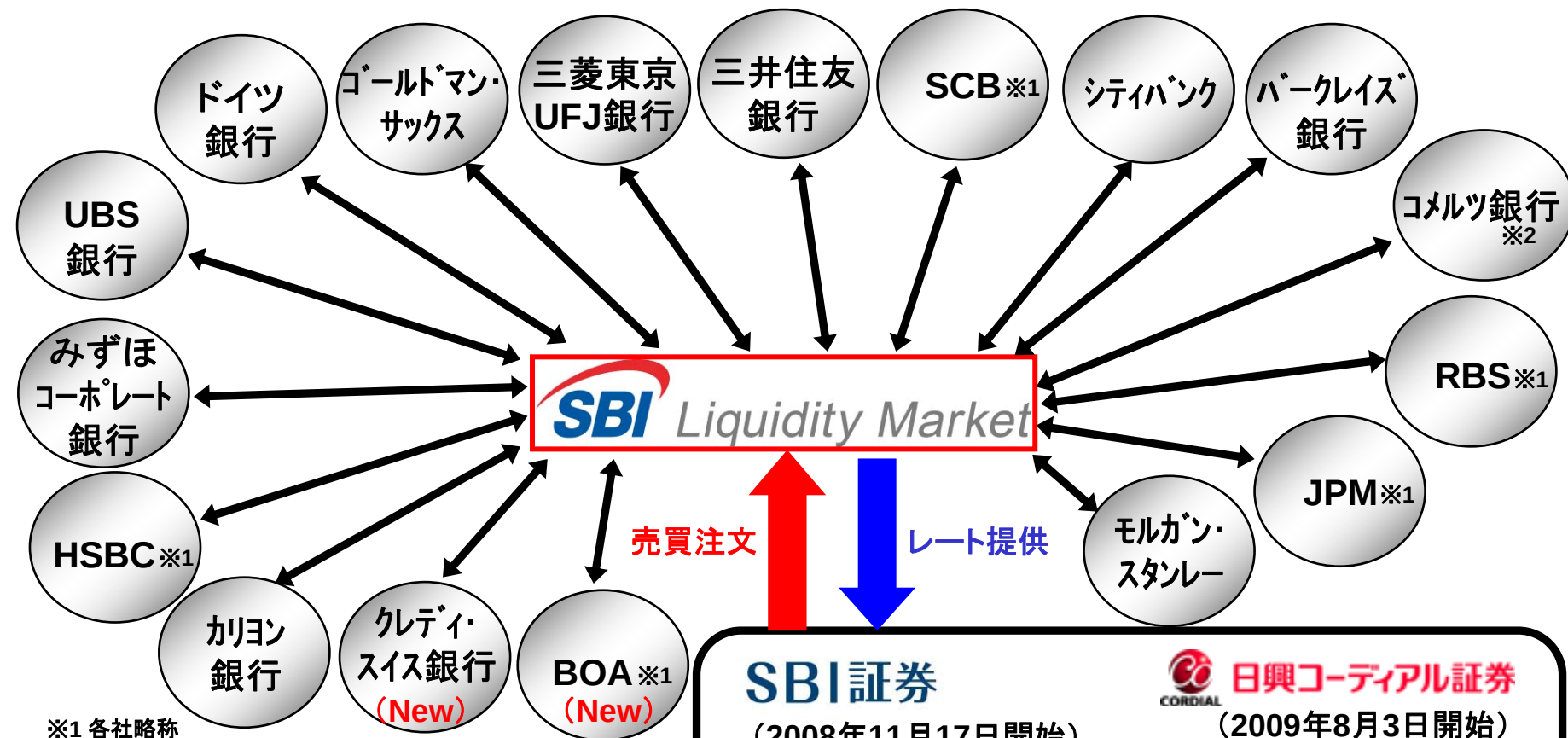
【 SBIリクイディティ・マーケット】

(2008年11月17日営業開始)

欧米主要金融機関及び国内大手銀行計17行※の カウンターパーティー群により、安定した取引機会を提供

(※ その他、2金融機関と交渉中)

今年度に入り新たに5行(みずほコーポレート銀行、香港上海銀行、カリヨン銀行、
バンク・オブ・アメリカ、クレディ・スイス銀行)がカウンターパーティーとして参加



※1 各社略称

RBS・・・ロイヤルバンク・オブ・スコットランド

SCB・・・スタンダード・チャータード銀行

JPM・・・JPモルガン・チェース銀行

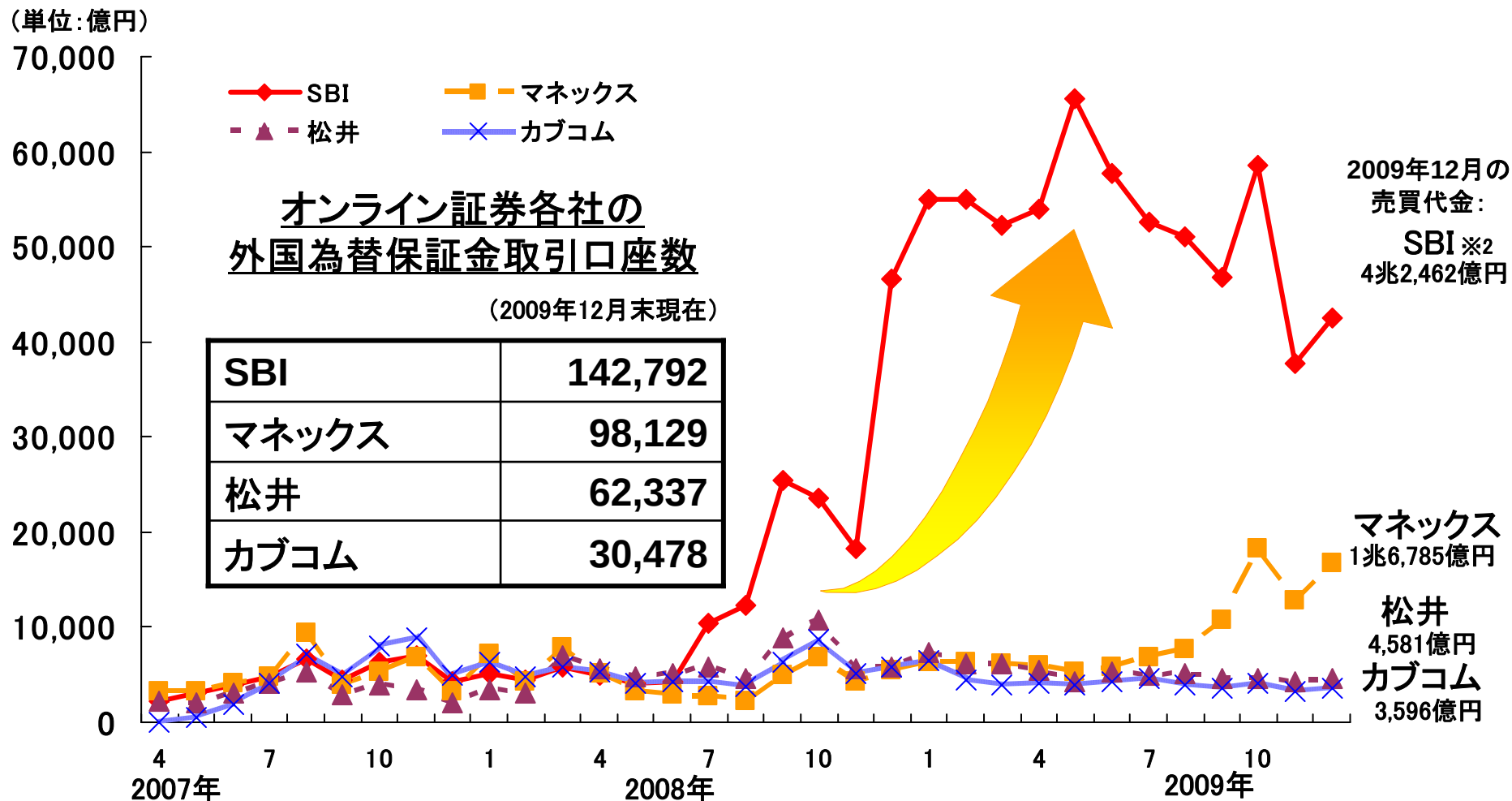
HSBC・・・香港上海銀行

BOA・・・バンク・オブ・アメリカ

※2 コメルツ銀行がトレスナー銀行を買収し、業務を引き継いでおります。

ネット証券大手4社※1の 外国為替保証金取引売買代金の推移

SBIリクイディティ・マーケットを活用しサービス内容を拡充したことで、
SBI証券におけるFX取引の売買代金は大きく拡大



※1 SBI証券とデータが開示されているマネックス証券、松井証券、カブドットコム証券の計4社
 ※2 2008年11月～2009年2月は、『SBI FX』及び『SBI FX α』の売買代金合計

SBIリクイディティ・マーケットは、2008年11月17日の
営業開始から短期間で、連結業績に大きく貢献する子会社に成長

【SBIリクイディティ・マーケットの収益貢献】

(単位: 億円)

	2009年3月期			2010年3月期			
	3Q _{※1}	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	累計
営業収益(売上高)	5.5	23.5	29.0	28.2	27.9	<u>25.4</u>	<u>81.5</u>
内、SBI証券の トレーディング益 (SBI証券: 営業利益)	3.5	14.9	18.3	17.9	17.6	<u>15.9</u>	<u>51.4</u>
営業利益	1.1	7.3	8.4	8.6	8.4	<u>7.5</u>	<u>24.5</u>

※1 営業期間は11月17日からの約 1.5ヶ月間

住信SBIネット銀行(2010年1月18日開始)に続き、
今後も接続する事業者を拡充することにより、
更なる流動性(取引量)の拡大と収益の増加を図る

【SBIジャパンネクスト証券】

(2007年8月27日営業開始)

～国内PTS市場の2009年売買代金は3兆円に迫り、
ジャスダック証券取引所に迫る規模に伸長～

日本最大規模の私設取引市場に

2008年10月の昼間取引開始後、取引量は大幅に増加
2009年10月の1日当たり売買代金は、前年同月比約5.4倍の95億円

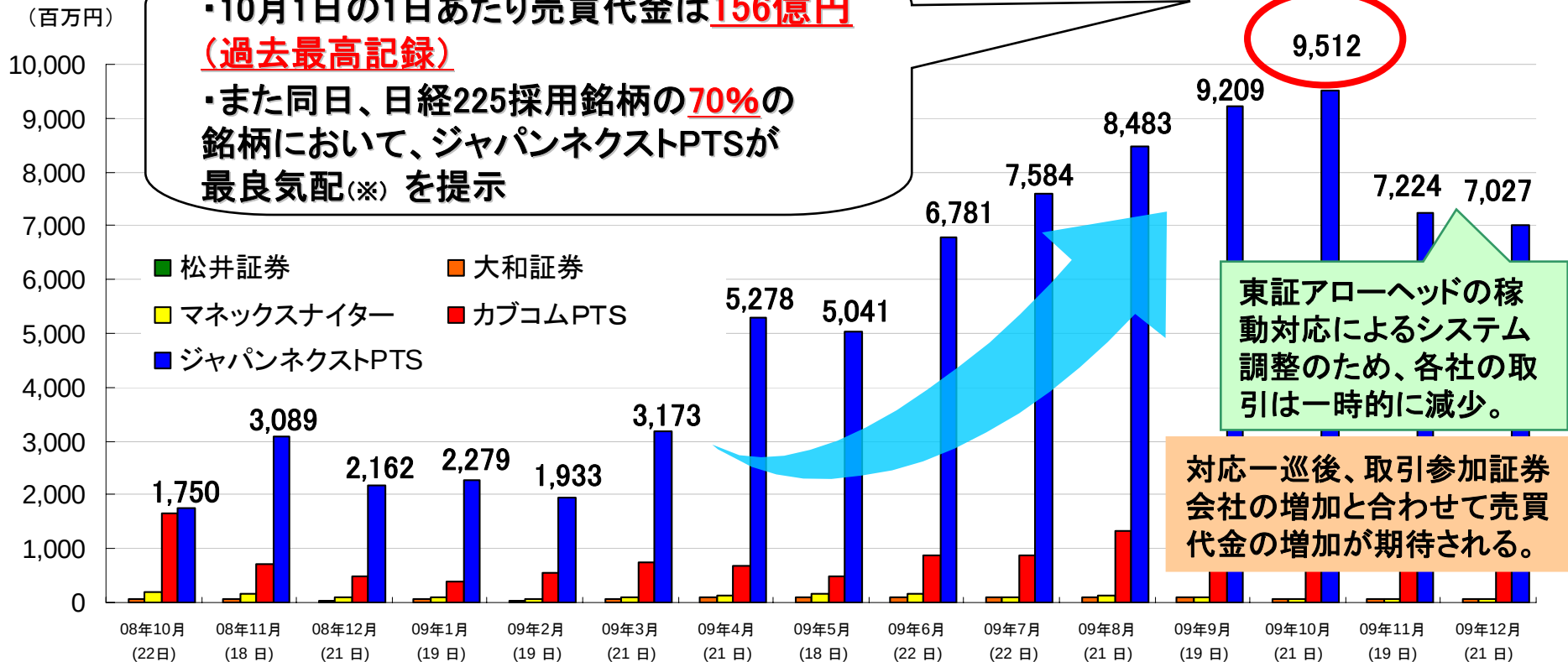
1日当たり売買代金比較 (2008年10月～)

10月：月間売買代金

1,997億円 (過去最高記録)

・10月1日の1日あたり売買代金は**156億円 (過去最高記録)**

・また同日、日経225採用銘柄の**70%**の銘柄において、ジャパンネクストPTSが最良気配(※)を提示



(※)取引所よりも有利な気配値段、トムソンロイターにて確認 売買代金は各社HP、日本証券業協会HP、日経QUICKより当社にて集計

なお売買代金は当社独自に集計したものであり、各社の今後の公表数値とは異なる場合があります。

シングルカウントとなっており、売りと買いの合計ではありません

東証：新システム「アローヘッド」の稼働により 期待されるPTS市場のさらなる活性化

＜ロイターニュースより（09年12月16日配信）＞

PTS（私設取引システム）に飛躍するチャンスが訪れている。1月4日から開始する新システム「アローヘッド」によって東証の売買が高速化され、東証とPTSでの市場間裁定取引が活発化することで、発展のカギになる流動性が一段と高まり、取引量の拡大が期待できる状況になっている。

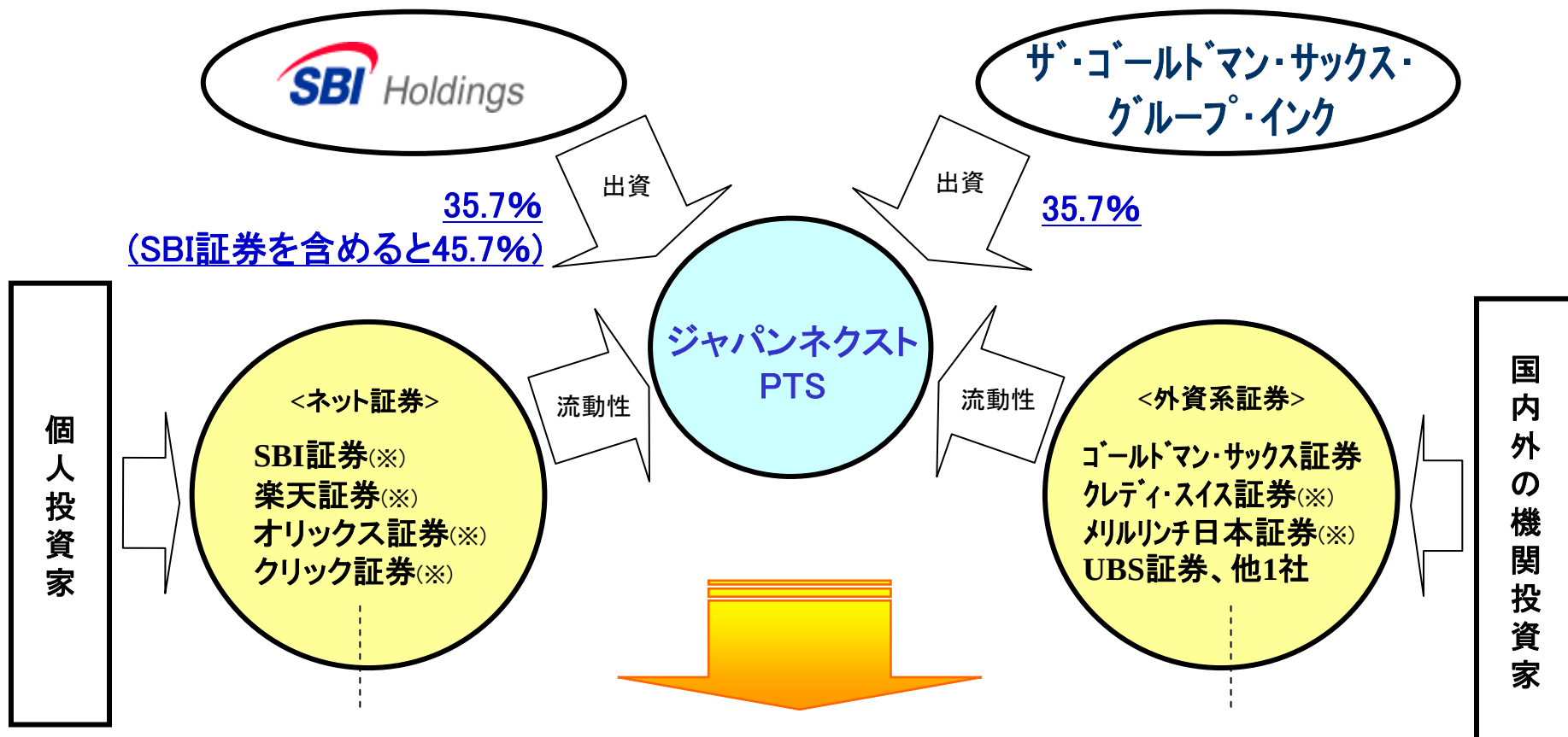
東証とPTSでは同一銘柄において異なる価格が提示されているため、理論的に両者間で裁定取引が可能だった。だが、東証とPTSで売買などの処理時間に大きな差が生じていたため、実際に執行するのは難しかった。アローヘッドのスタートで両者のスピードに差がほとんどなくなり、こうした裁定取引が実現され、流動性の向上につながると期待されている。



**取引環境の向上により流動性が高まることで、
投資家にとってさらにより良い価格・より多くの執行機会を
提供することが可能に**

新たな接続証券会社の参加により期待される ジャパンネクストPTSの取引拡大

～投資家にとって、より多くの取引機会を提供～



今後、昼間取引(8:20AM～4:30PM)に欧州系4社・日系2社・豪州系1社、
夜間取引(7:00PM～11:59PM/0:30AM～2:00AM)に
欧州系1社が取引参加を予定

ファイナンシャル・サービス事業

2010年3月期 第3四半期累計
 売上高 181億円(前年同期比 8%増)
 営業利益 1億円(同 95%減)

【内訳】 既存事業: 売上高 172億円(前年同期比 3%増)
 営業利益 11億円(同 48%減)

新規事業: 売上高 17億円(前年同期比 163%増)
 営業利益 ▲11億円(－)

主な内訳:

カード(▲7億円)
 カードプロセッシング(▲2億円)*
 ネット生保(▲2億円)

* 09年11月売却済

主な連結子会社等

【既存事業会社】

- SBIホールディングス(事業部)
- モーニングスター
- ゴメス・コンサルティング
- SBIベリトランス

【新規事業会社】

- 住信SBIネット銀行(持分法適用)
- SBI損害保険
- SBIアクサ生命保険
- SBIカード

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

ファイナンシャル・サービス事業のハイライト

I 経営の効率化を目指した組織再編成が進む中、既存事業が好調に推移したことで営業黒字を確保

- ・ ファイナンシャル・サービス事業の第3四半期(累計)の売上高は、既存事業を展開する各社の業績(金融系比較サイト運営の当社マーケットプレイス事業:前年同期比25.2%増の41億円、SBIベリトランス:同14.4%増の37億円、SBIリース:同12.1%増の38億円、等)が順調に推移した結果、前年同期比8%増の181億円となり、引き続き増収を達成。
- ・ 営業利益では、これまで個人向けローン事業を展開してきたSBIイコール・クレジットが、貸倒引当金繰入等を第3四半期までに累計18億円計上していることが大きく影響し、前年同期比95%減の59百万円に。なお同社は本年1月12日にSBIカードと合併しており、今後事業効率の向上を図る。

II 順調に顧客基盤を拡大し続ける新規事業群

- ・ 07年9月開業の住信SBIネット銀行は、預金残高9,126億円、口座数63万7千口座(09年12月末)と、計画を大きく上回って進捗。引き続き四半期ベースでの黒字化を達成し、今期の持分法投資損益(営業外損益)の大幅改善が期待される。なお、10年1月中の預金残高1兆円達成も視野に。
- ・ 08年1月開業のSBI損保は、低水準の保険料やチャネルの拡充などが奏功して、開業から2年弱で累計成約件数は10万件を突破(09年12月末)。

2010年3月期第3四半期^(9ヶ月) 上場子会社 各社業績

- ・ モーニングスターは、主要顧客となる金融機関の広告・販促需要の冷え込み等を背景に第3四半期累計の連結業績は前年同期比で減収減益となったものの、四半期ベースでは回復基調で推移。
- ・ ゴメス・コンサルティングは、コスト削減による収益力強化が奏功し、2四半期連続で営業利益・経常利益・純利益でそれぞれ黒字となり、前年同期比で大きく回復。
- ・ SBIベリトランスは、EC市場の拡大などを背景に、トランザクション件数は前年同期比15.8%増の4,369万件と順調に増加。第3四半期累計の連結業績は売上高・利益の全項目で過去最高に。

(単位:百万円、()内は前年同期比増減率%)

※1	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
モーニングスター	1,716 (▲22.4)	275 (▲1.7)	357 (+5.1)	204 (▲5.9)
ゴメス・ コンサルティング	282 (▲6.4)	2 (-) ※2	19 (-) ※3	17 (-) ※4
SBIベリトランス	3,734 (+14.4)	769 (+13.4)	783 (+13.8)	456 (+12.3)

※1 モーニングスター、SBIベリトランスは連結業績、ゴメス・コンサルティングは単体の業績を掲載しております。

※2 前年同期間の営業損益は▲41百万円となっております。 ※3 前年同期間の経常損益は▲35百万円となっております。

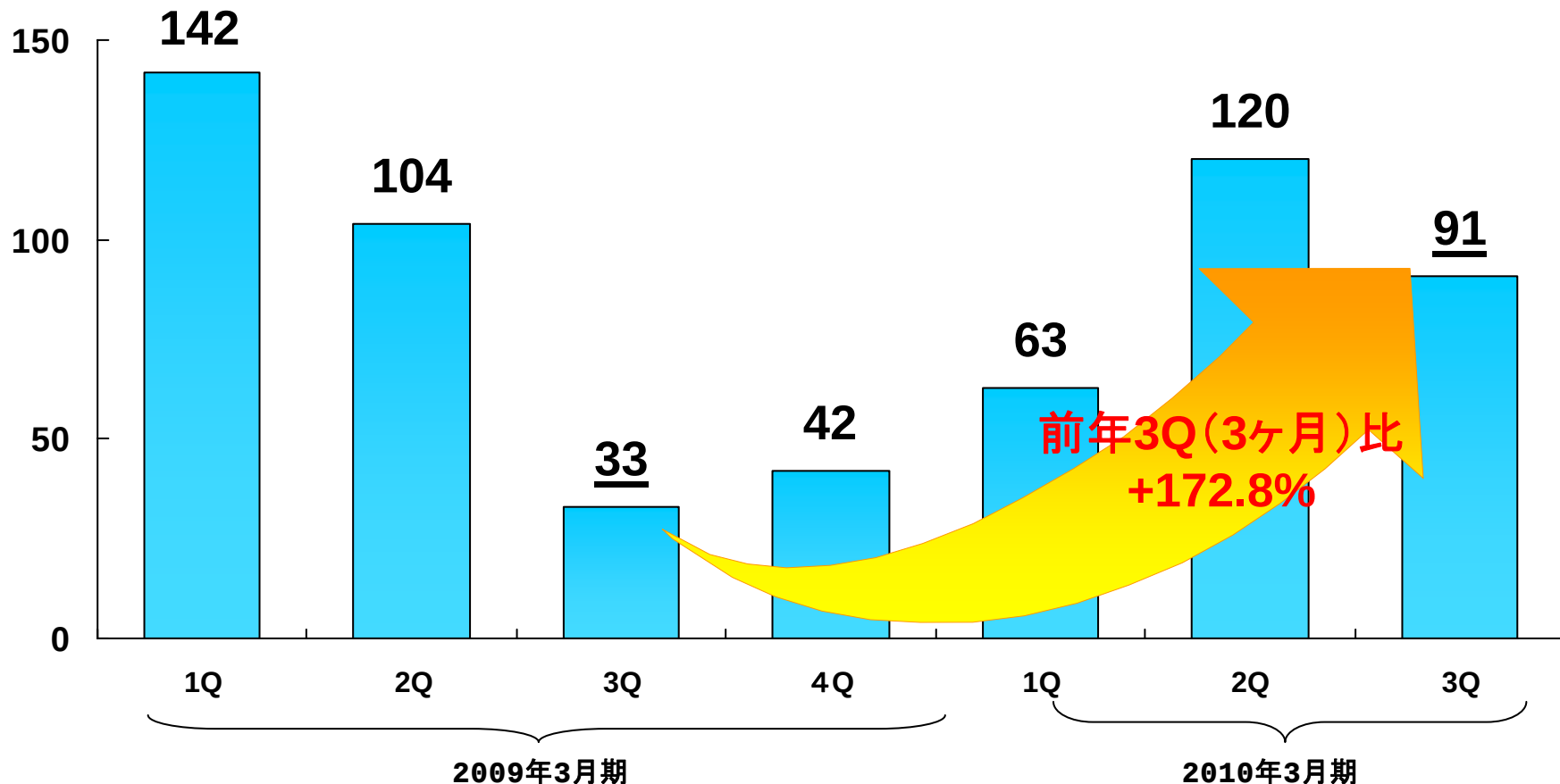
※4 前年同期間の四半期純損益は▲21百万円となっております。

モーニングスター 連結営業利益の四半期推移

金融機関の広告・販促需要の低迷などにより営業利益は第3四半期累計では前年同期比1.7%減となったものの、販管費の縮小などが奏功し、**前年同四半期(3ヶ月)比では172.8%増と大幅に改善**

(営業利益: 百万円)

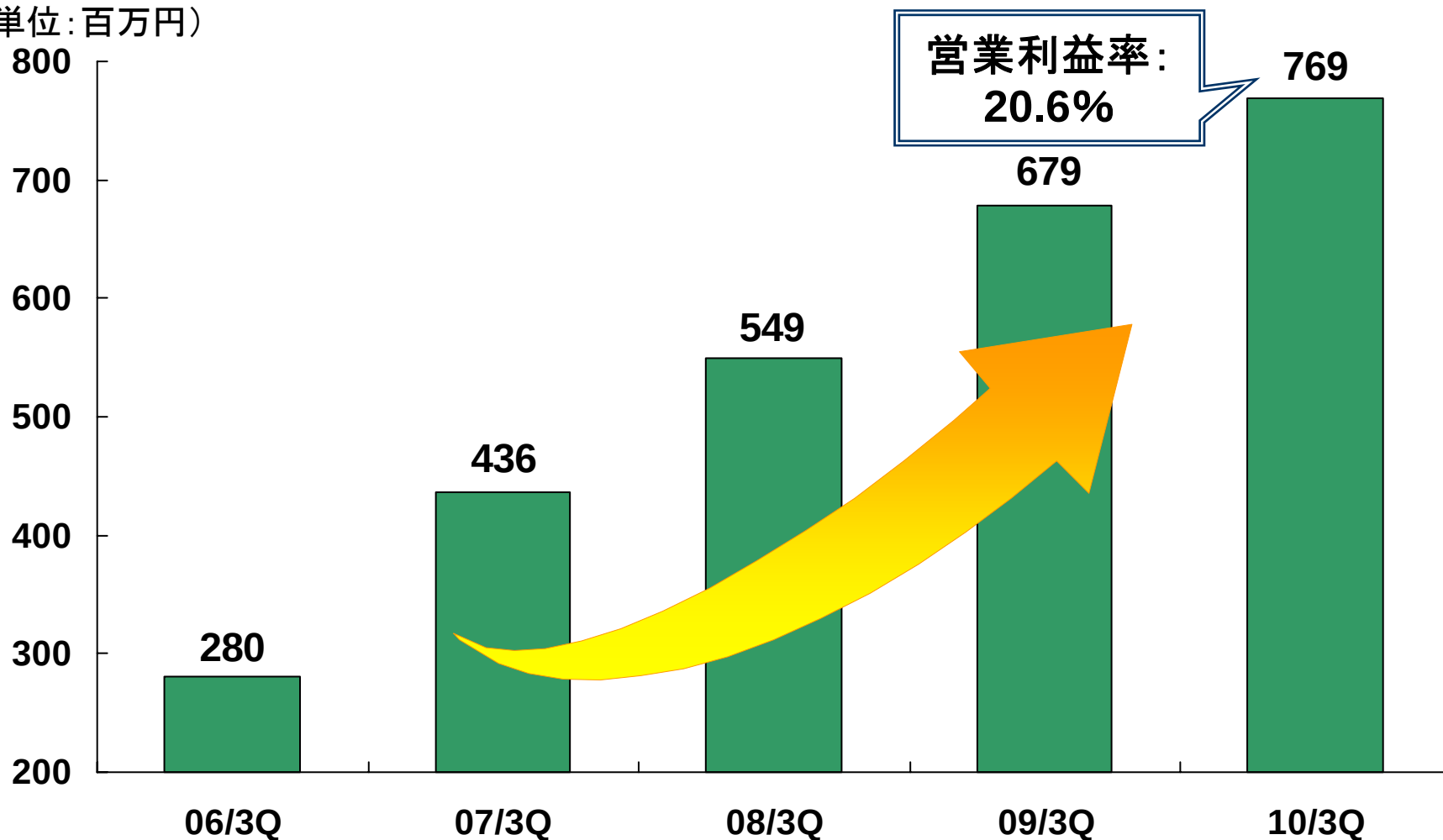
モーニングスター 連結営業利益の四半期推移



SBIベリタンス 第3四半期営業利益推移

SBIベリタンスの第3四半期(4-12月)営業利益は、
前年同期比13.4%増と堅調に推移

(単位:百万円)



※07/3期 第3四半期より連結決算を開始

国内最大級の金融系比較サイト「インズウェブ」「イー・ローン」を中核とした
マーケットプレイス事業の取引件数は、**前年同期比8.7%増と順調に成長**

～新たに設立されたイーデザイン損保のインズウェブへの参加などが奏功した～



: 保険商品見積もりサイト「インズウェブ」: 損保22社・生保20社参画

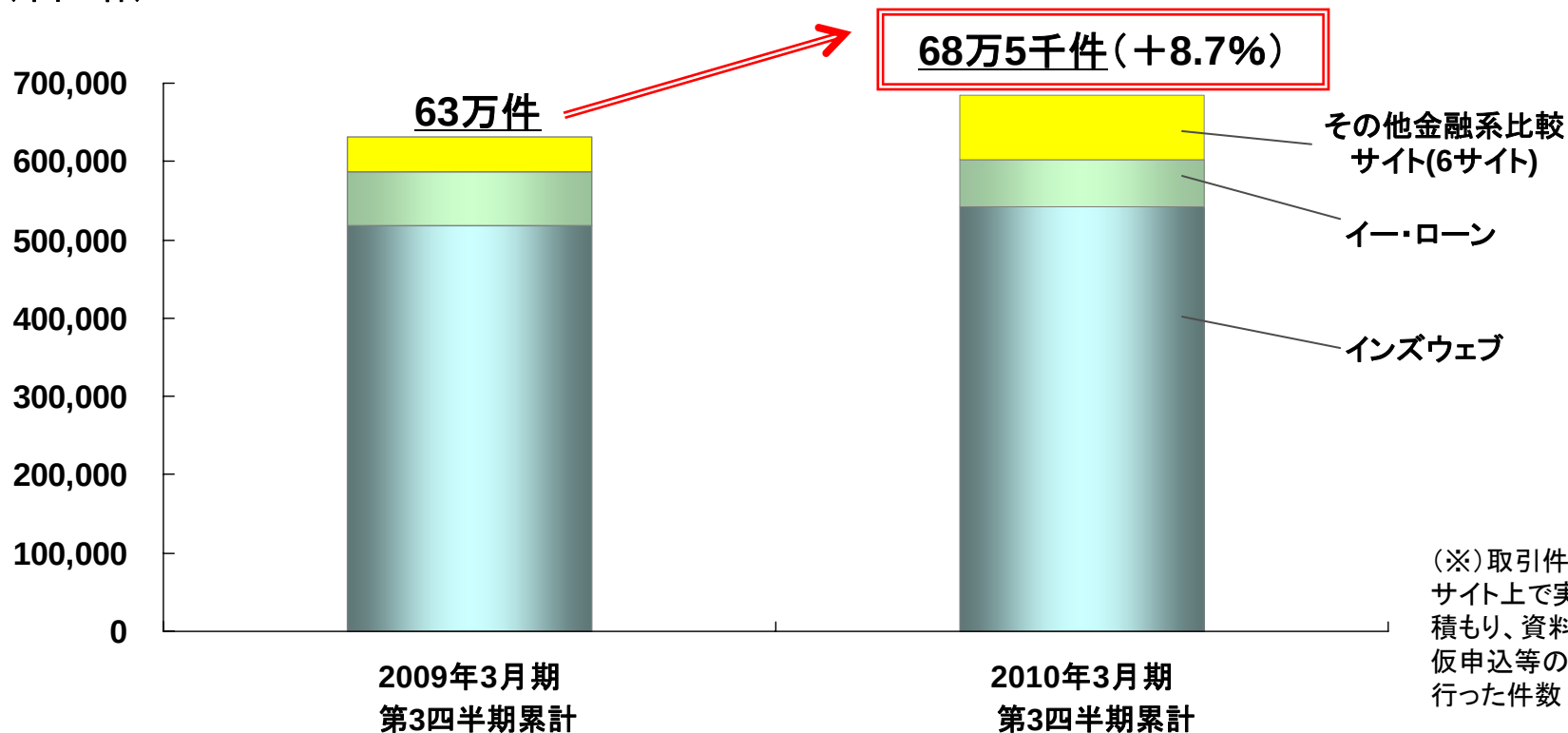


: ローン商品比較検索サイト「イー・ローン」: 金融機関数65社、ローン商品数546

その他金融系比較サイト(計6サイト): 証券会社比較、FX取引会社比較、おくるまりース見積もり等

マーケットプレイス事業における取引件数の推移(※)

(単位: 件)



【新規事業の進捗】

【住信SBIネット銀行】

順調に拡大する住信SBIネット銀行の顧客基盤



2009年12月末時点

※確定値、()内は2010年1月25日時点の速報値

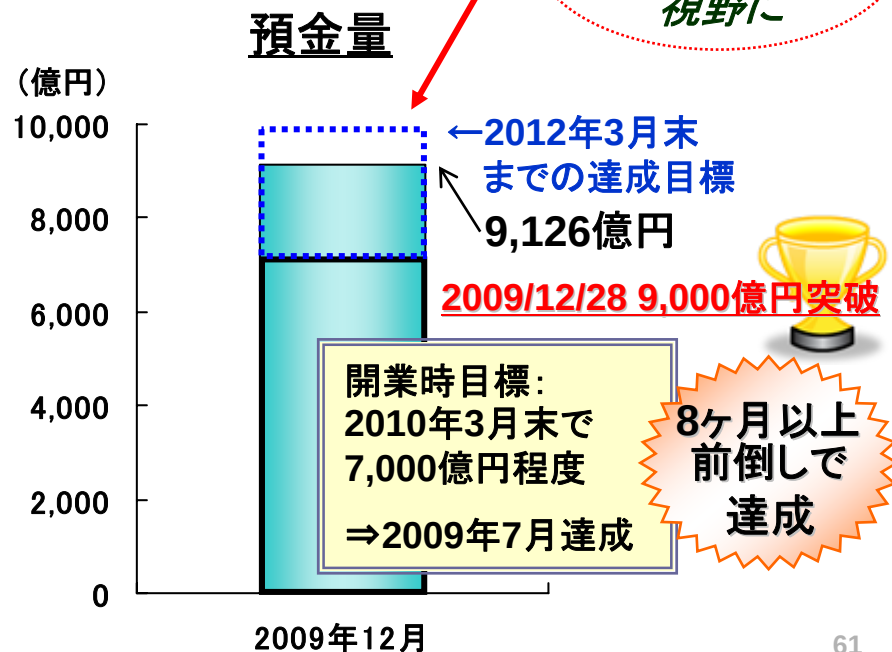
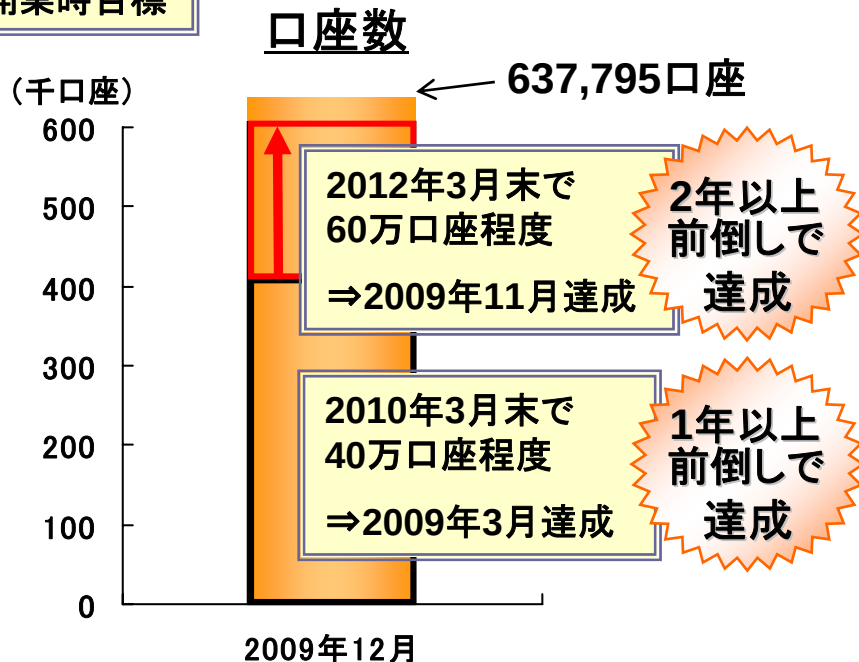
口座数: 637,795口座 (668,124口座)

預金量: 9,126億円 (9,847億円)

貸出金残高: 3,636億円 (3,689億円)
(住宅ローン+ネットローン)

<2009年12月末での目標達成状況>

開業時目標



2010年1月中の
1兆円突破も
視野に

預金残高は開業から約2年3ヶ月で9,000億円を突破

競争力のある金利の設定、個人顧客に対する手数料無料でのATM入出金・振込取引の提供のほか、各種キャンペーンの展開により、2007年9月24日の開業から約2年3ヶ月(827日)で預金残高が9,000億円を突破した。

各行が預金残高9,000億円突破に要した日数

	開業日	預金残高が 1,000億円を 超えた時期 (注1)	開業からの 日数	預金残高が 9,000億円を 超えた時期 (注1)	開業からの 日数	預金残高 (注2)
イーバンク銀行	2001/7/23	2003/10/1～ 2004/3/31	801～ 983日	—	—	7,026億円
ジャパンネット銀行	2000/10/12	2002/10/1～ 2003/03/31	720～ 901日	—	—	4,357億円
ソニー銀行	2001/6/11	2002/3/1～ 2002/03/31	264～ 294日	2007/10/1～ 2007/10/31	<u>2,304～</u> <u>2,334日</u>	14,427億円
住信SBIネット銀行	2007/9/24	2007/11/19	57日	2009/12/28	<u>827日</u>	9,847億円

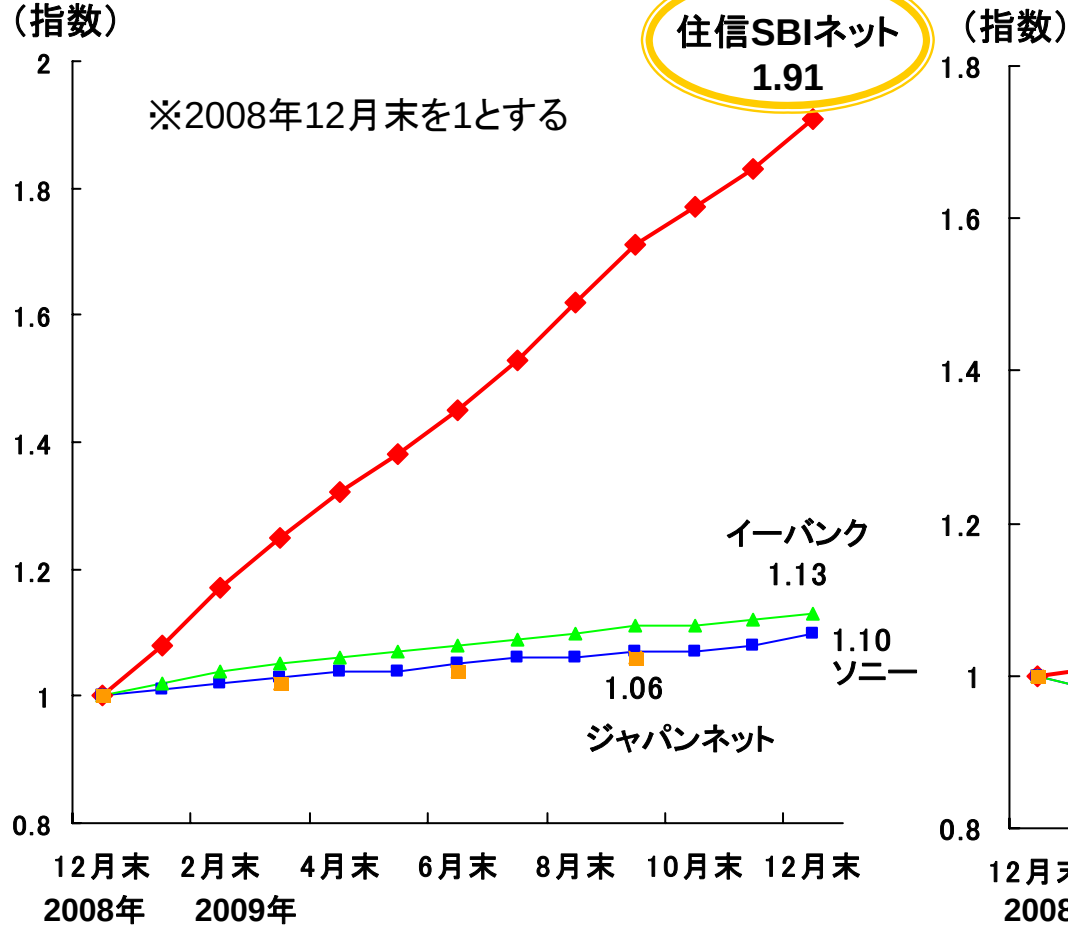
- ・2008年8月に4,000億円突破！⇒ 2008年9月末(開業から1年)にはジャパンネット銀行を抜く
- ・2009年7月に7,000億円突破！⇒ 2009年7月末(開業から2年足らず)にはイーバンク銀行を抜く

(注1) 各行公表資料より、預金残高がそれぞれの金額を超えたことが判明した時期

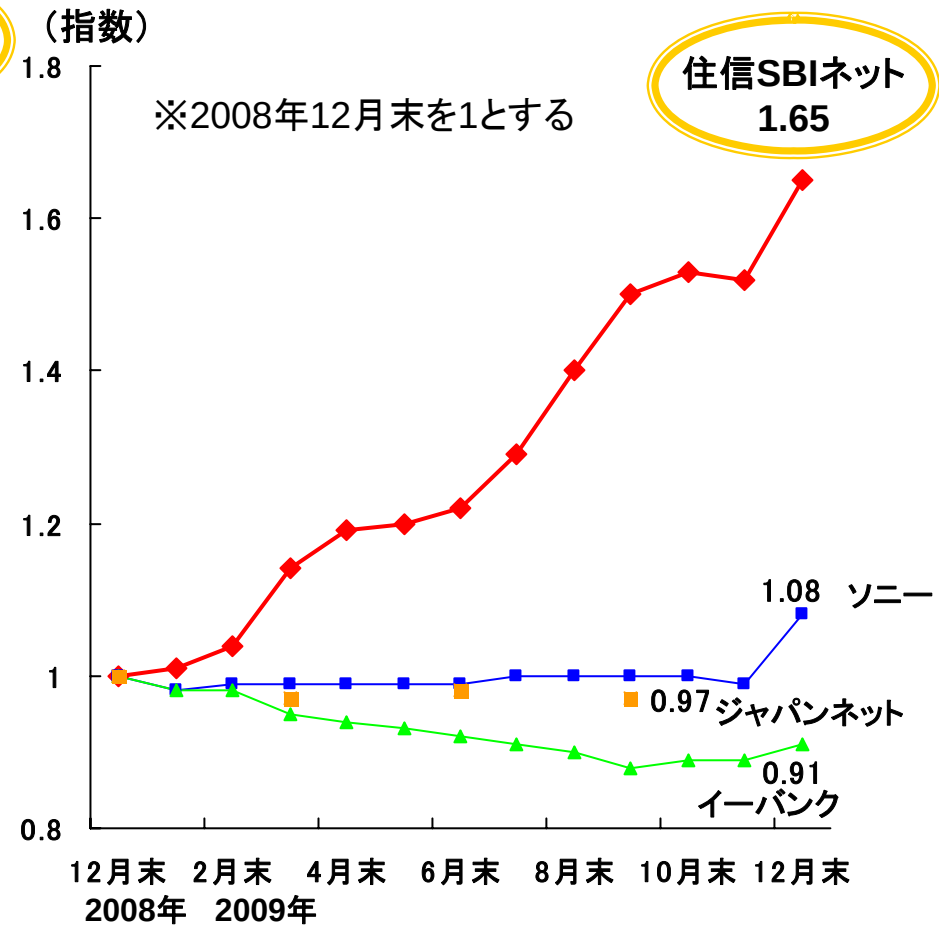
(注2) イーバンク銀行・ソニー銀行は2009年12月末の残高、ジャパンネット銀行は2009年9月末の残高、住信SBIネット銀行は2010年1月25日の速報値

インターネット専業4行の顧客基盤拡大の推移 (2008年12月末～2009年12月末、直近1年間)

口座数(指数)の推移



預金残高(指数)の推移



住信SBIネット銀行は口座数・預金残高ともに1年前の約2倍に拡大

第6回日経金融機関ランキング^(※1)

「顧客満足度」で2位を獲得

「世代別顧客満足度」では40代で2位、「エリア別顧客満足度」では「首都圏のみ」で2位、「資産運用やローンの提案力」では前回14位から7位に浮上。

(※2)

記事

前回6位から
2位に浮上

「(住信SBIネット銀行は) ソニー銀行と同じく資産運用関連の項目で高い評価を獲得した。関連のSBI証券と提携し、株式などの購入に充てられる銀行預金口座を提供するなど、「商品・サービスが魅力的」の項目では1位についた。「電話・インターネット取引の利便性が高い」といった項目でも首位。」^(※2)

(※1) 日本経済新聞社が3大都市圏の個人を対象に実施

(※2) 2010年1月10日付け日経ヴェリタスより抜粋

預金量増加とともに成功の鍵を握る資金運用

住信SBIネット銀行はグループシナジーを追求することで資金運用の多様化を図る。

預金残高: 9,126億円

(2009年12月末時点、※確定値)

- 
- ・住宅ローン: 住宅ローン実行累計額3,500億円突破(2009年11月30日)
 - ・オートローン: オートローンの実行累計額: 27.4億円(※)⇒更なる拡大を目指す
【2009年7月～】オートローン商品「SBIオートローン」への資金提供も開始
 - ・不動産担保ローン、個人向け無担保ローン、診療報酬債権ファクタリング
(レセプトファイナンス)など運用先を拡大中。

(※)2010年1月8日時点

<今後の重点資金運用>

- ・金利スワップ、CP引受、安全かつ利回りの良い証券化商品の組成、
など証券分野と融合した業務・運用の多様化
- ・SBIグループの運用機能の活用

2010年3月期第3四半期も 四半期ベースでの黒字を達成 ～ 通期でも単年度黒字化を見込む ～

【四半期ごとの経常損失・利益の推移】(単位:億円)

2009年3月期		2010年3月期		
3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
			※	※
経常損失 7.5	経常利益 1.35	経常利益 8.56	経常利益 4.38	経常利益 4.81

(※単体)

2009年1月に初の単月黒字化を達成。四半期ベースでも初の黒字化(当期利益:1.35億円)を達成！

上期:13.0億円

3Q累計:17.8億円

2009年3月期 通期

経常損失: 3,687百万円

当期純損失: 3,699百万円

当社営業外損失(持分法による投資損失)として1,849百万円計上

開業時の目標:

2012年3月期:

当期純利益50億円程度、累損解消

【SBI損害保険】

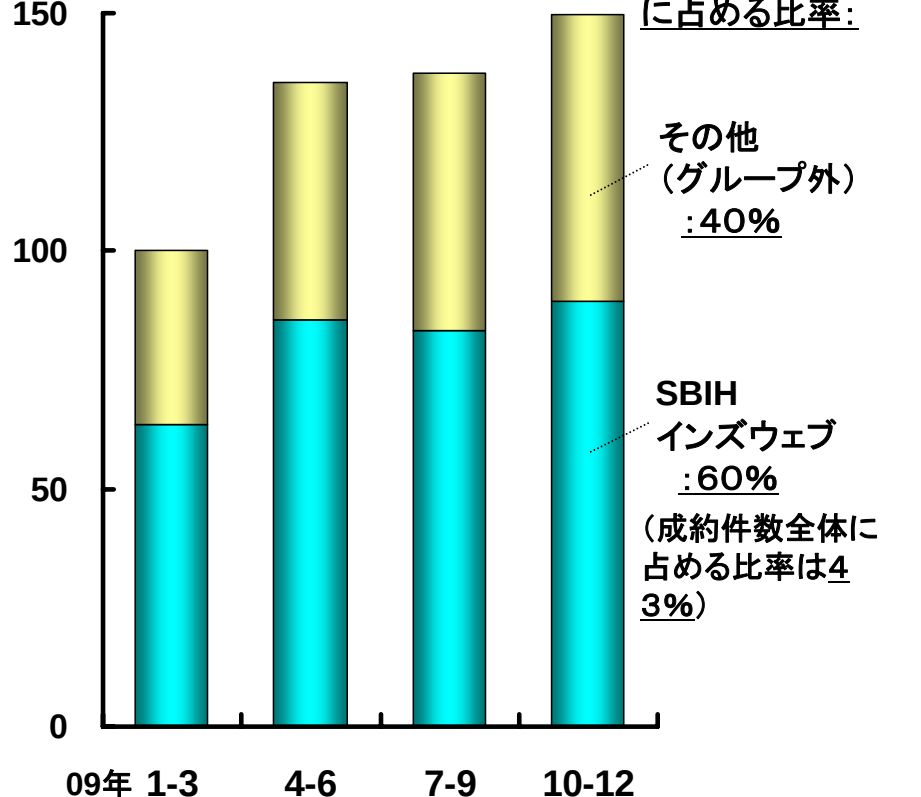
販売チャネル拡大を背景に成約件数が順調に増加

09年4月より住信SBIネット銀行、7月よりゲオ店舗(一部)にて取扱いを開始。
10月よりガリバー顧客への紹介も開始する等チャネルを拡充、件数増加を図る。

チャネル別のSBI損保の成約件数 四半期比較

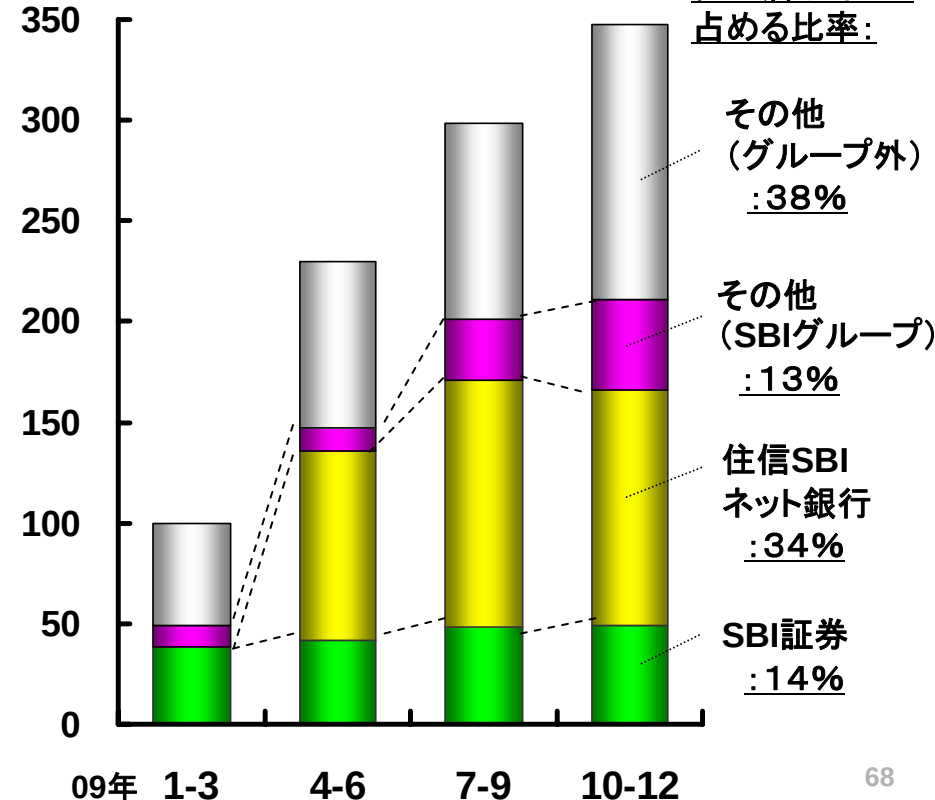
比較見積もりサイト

※09/1-3の比較サイト経由
全体を100として指数化



代理店サイト

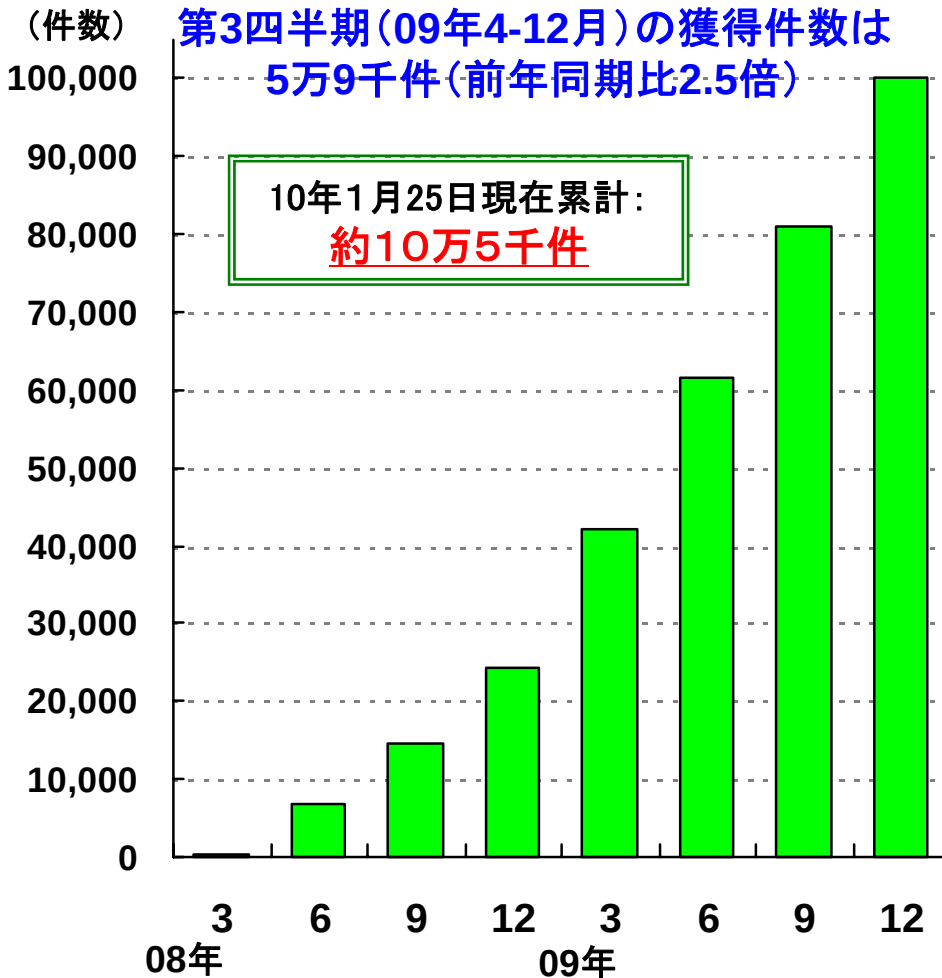
※09/1-3の代理店サイト経由
全体を100として指数化



開業から2年弱で成約件数は10万件を突破

自動車保険 契約数(計上ベース※)・累計

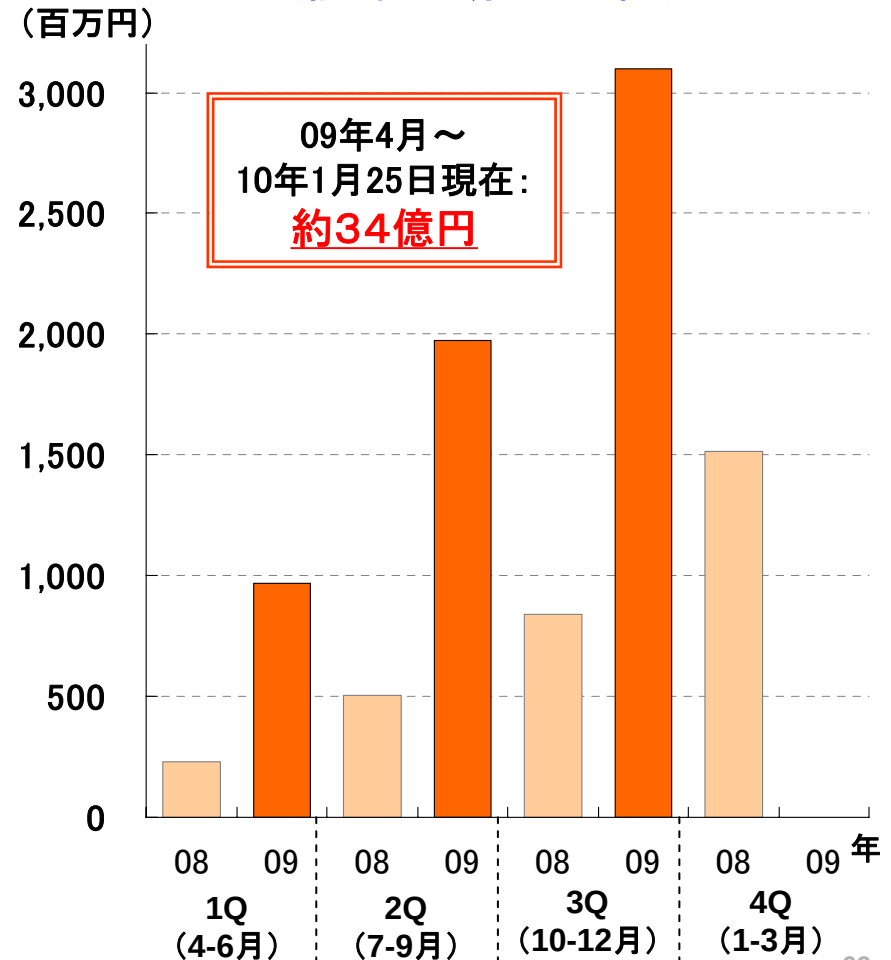
開業来累計成約件数:10万件超
(2009年12月末現在)



※計上=保険料の入金完了

元受収入保険料(計上ベース※)・年間累計

第3四半期(09年4~12月)の
収入保険料は、約31億円に
(前年同期比3.7倍)

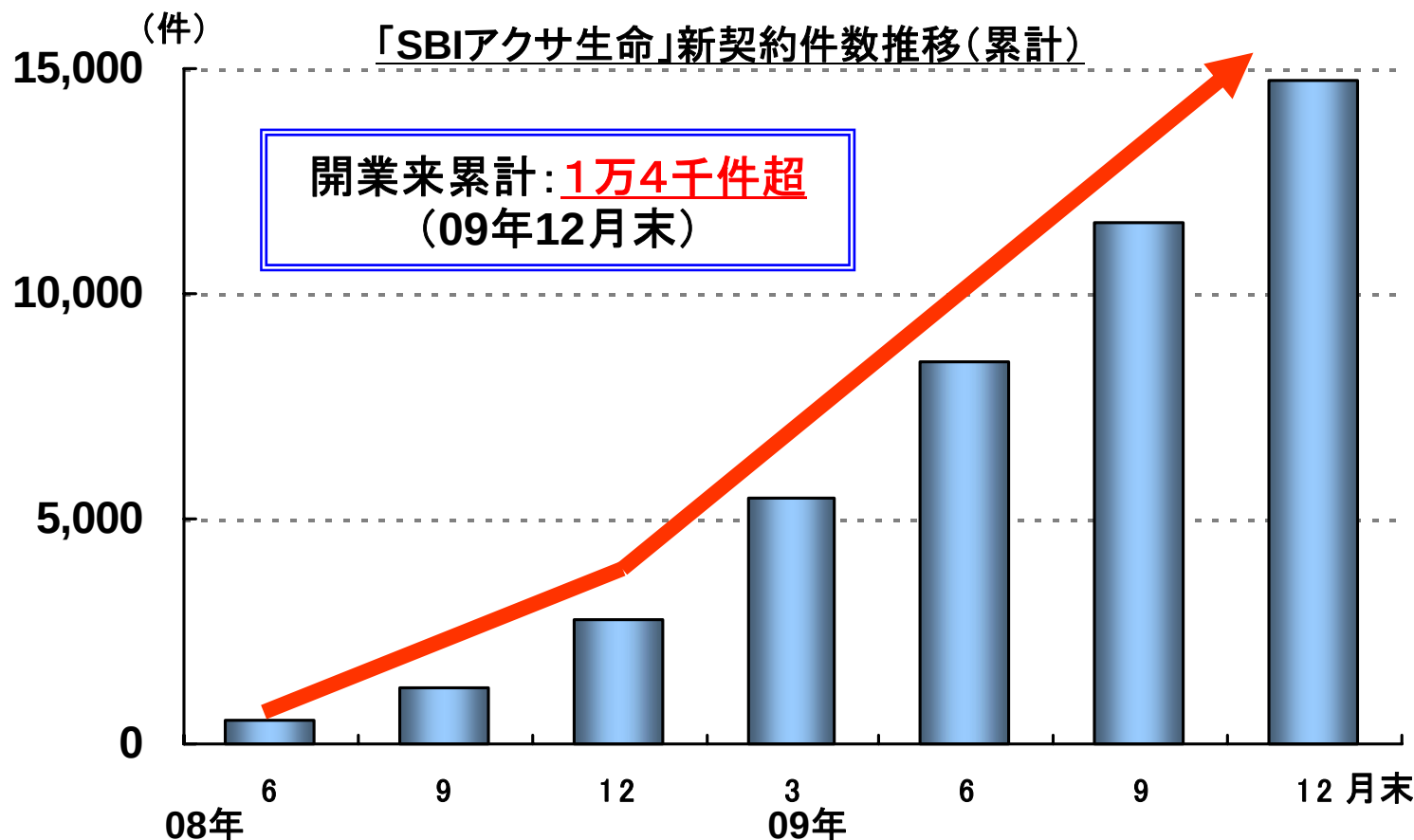


【SBIアクサ生命保険】

10-12月の契約件数は月間1,000件超

～ 前年同期間(08年10-12月)の月間平均496件から大きく伸長 ～

既存ダイレクト生保のチューリッヒ生命(月間平均666件)、損保ジャパンDIY生命(同431件)を大きく上回る水準で推移(※)



住宅不動産関連事業

2010年3月期 第3四半期累計
売上高 200億円(前年同期比 38%減)
営業利益 ▲2億円(一)

主な連結子会社等

- SBIホールディングス(事業部)
- SBIライフリビング(7/1付でリビングコーポレーションより商号変更)
- SBIモーゲージ
- セムコーポレーション

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

住宅不動産関連事業のハイライト

- I 住宅不動産関連事業は、国内不動産市場に中・小型物件を中心とした回復の兆しが一部見え始めたことなどから、第3四半期累計では、売上高は前年同期比38%減の200億円、2億円の営業損失となったものの、**第3四半期(3ヶ月)では4億円の営業黒字**となっており、**通期での黒字化を目指す**。
なお、たな卸不動産残高322億円に対し、今期計上している評価損の累計額は3億円。
- II 不動産事業については、引き続き主たる購入者である不動産ファンドとの取引は低迷し、売上高、営業利益ともに大幅に減少。
今後も市場動向を勘案しながら、資金化可能な物件は順次売却を進める。
また新規投資は、マーケットの状況を見つつ引き続き慎重な投資スタンスを継続。
- III SBIモーゲージは住宅ローン商品「フラット35」を業界最低水準金利で提供、実行残高は2009年7月に5,000億円を超え、12月末には**5,818億円**と急拡大中。
- IV SBIライフリビングに譲渡した仲介サイトや生活関連比較サイトの運営事業は、第3四半期(3ヶ月)の売上高は**344百万円**、営業利益は**134百万円**と事業譲渡後も堅調に推移。SBIライフリビングの連結営業利益(四半期ベース)は第2四半期に引き続き第3四半期も黒字となり、第3四半期累計期間での黒字化も達成。

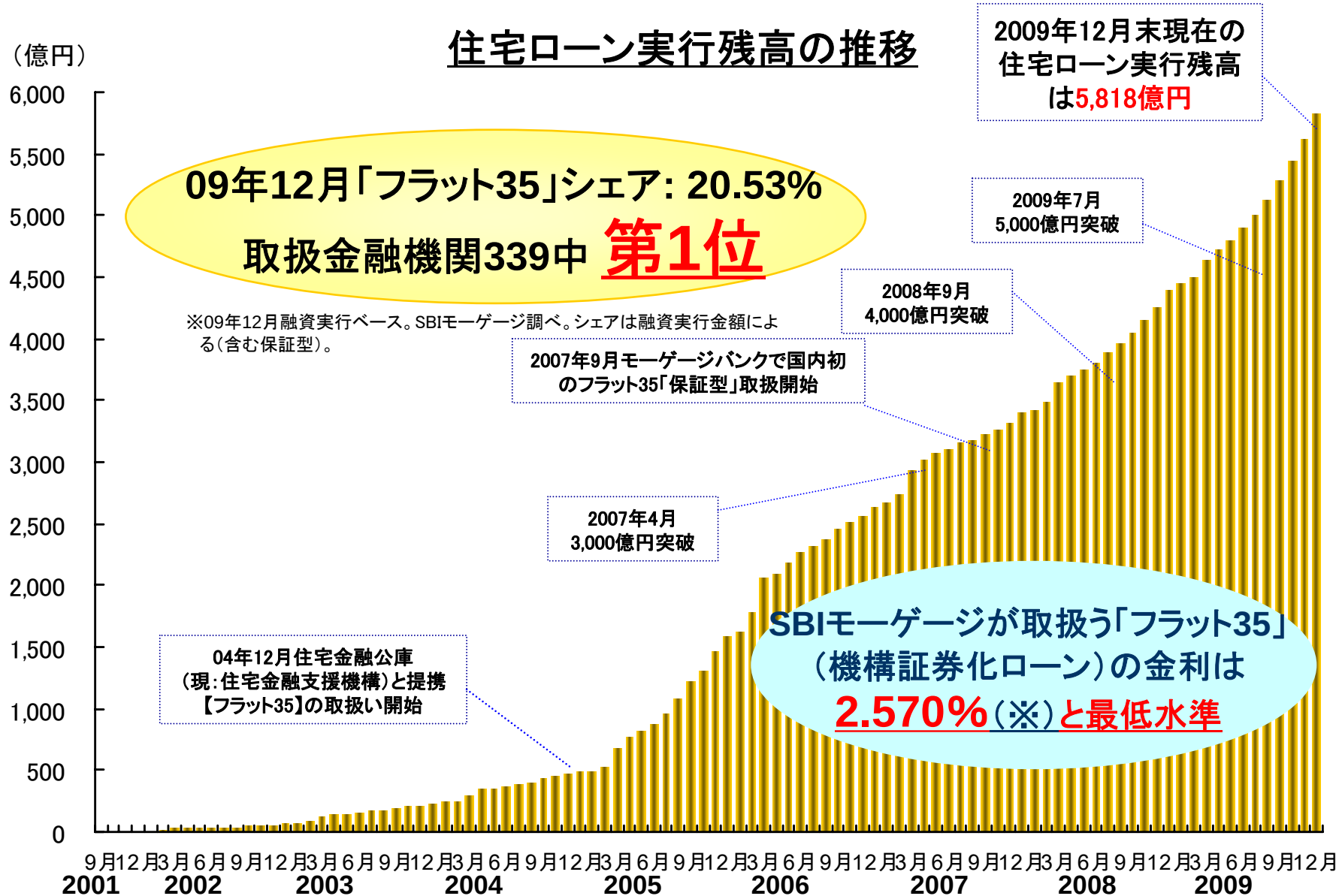
一部に回復の兆しが見えてきた国内不動産市場

現在の保有物件も不動産市況の動向を見ながら順次売却を進める

東証REIT指数(配当込み)の推移(2008年1月～現在)



大躍進を続けるSBIモーゲージ



(※)10年1月買取型の融資実行金利

2. 今後の事業方針概略

SBIグループ 2010年の運営方針について(1)



2010年1月4日SBIグループ年賀式での年頭所感より

「・・・さて、こうした年相(庚寅)を踏まえ、我々SBIグループとしては、

第一に、全役職員が物事に対し恐れ慎む心を有し、様々な変化に戸惑うことなく平常心を持って冷静に判断・対処をする。換言すれば、グループ創業の精神を思い返し、十分にそれを継承し、ブレない判断をするということです。

第二に、グループ内の各社各層において協力一致し、シナジー効果を飛躍的に高めることに尽力する。

第三に、各社のリーダーシップをとるものは『易経』に「大人虎変し、君子豹変す」とあるように、社の全役職員が目を見張るくらいに自分の思想・信念・行動をはっきりし、下のものが一つのベクトルで進めるよう努めなければならない。

第四に、グループ各社において各人「虎穴に入る」気概を持ち、「虎視眈眈」と来たるべきアジアの時代を見据え、収益機会をつかむべし。

・・・」

SBIグループ 2010年の運営方針について(2)

年頭所感を踏まえたSBIグループの具体的な方針

グループ創業の精神を思い返し、個々が「自己進化」し続けるとともに、今後もグループ各社のシナジー効果を徹底的に追及する

- 
- (1) 金融生態系を形成・発展させ、顧客中心主義を徹底することで完成したネット金融を中心とした「金融コングロマリット」体制をさらに進化させるべく、「グローバル金融関連コンテンツ事業の拡充」や「異業種連携」を通じてグループ各社の競争力を更に高め、「日本最大の金融商品ディストリビューター」を目指す。

来たるべきアジアの時代を見据え、収益機会をつかむ

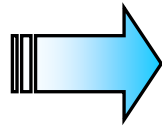
- 
- (2) 海外パートナーとのJVファンドを通じたベンチャー企業投資に加えて、日本で構築したインターネット金融生態系の海外移出により海外における収益を獲得する。

- (1)－① 金融生態系の完成とグループ各社間のシナジーにより強化・拡大された顧客基盤
- ② 金融商品ならびにマーケット機能の提供に留まらず、グローバル金融関連コンテンツ事業の拡充を図り、「日本最大の金融商品ディストリビューター」へ
- ③ 顧客へのリーチ拡大を目指したリアルチャネルの拡充
- ④ 新規事業の業績飛躍を目指した異業種提携の推進

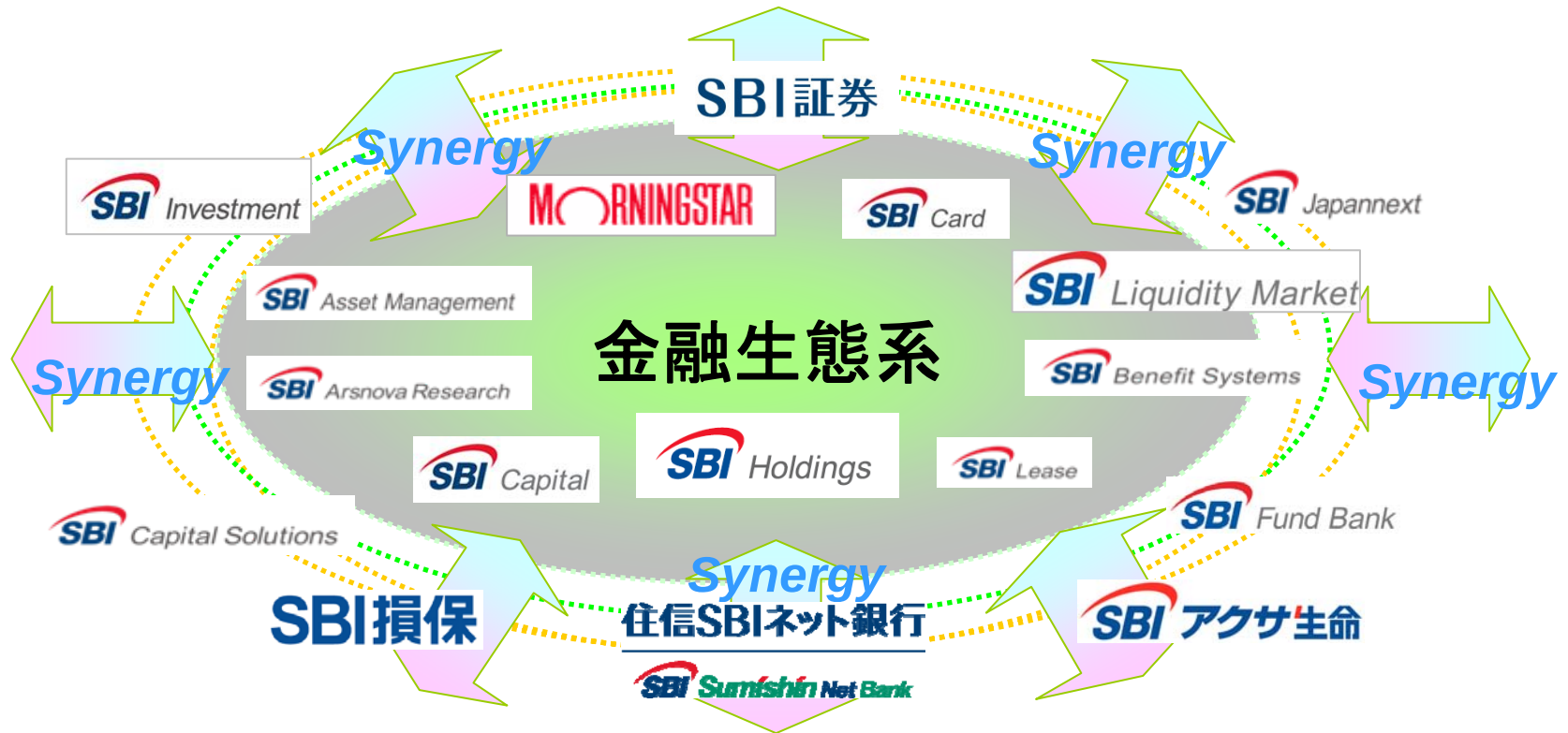
① 金融生態系の完成とグループ各社間の シナジーにより強化・拡大された顧客基盤

SBIグループ＝「(ネット)金融コングロマリット」

SBIグループ設立以降、金融事業分野で有力パートナーとの
ジョイントベンチャーを含む多様な事業会社を設立し金融生態系を拡大



ワンストップ・サービスを実現する、世界でも極めてユニークな、
ネット金融を中心とした金融コングロマリットとなる



今後もグループ各社間のシナジーを徹底的に追及することで、
グループ基盤の更なる発展・強化を図る

インターネットチャネルを中心に拡大を続けるSBIグループ顧客基盤

1999年 0 → 2005年3月 170万 → 2008年3月 680万 → 2009年9月 1,000万 → 2009年12月 **1,043万超**

主なグループ企業・事業部等		2009年12月末（単位：万）
SBI証券	（口座数）	200.2
SBIH インズウェブ	（保有顧客数）	309.0
イー・ローン	（保有顧客数）	91.9
上記以外の金融系サイト	（保有顧客数）	11.5
MoneyLook（マネールック）	（登録者数）	54.4
モーニングスター	（新ポートフォリオ登録者数）	5.0
SBIカード	（カード発行枚数）	6.3
住信SBIネット銀行	（口座数）	63.8
SBI損保	（年間成約者数）	10.0
SBIアクサ生命	（累計成約者数）	1.5
オートックワン	（年間利用者数）	178.0
生活関連サイト（チケット流通、ムスビー）	（登録会員数）	48.4
イー・ゴルフ	（登録会員数）	36.7
その他		27.1
合計		1,043.8

※ 2009年9月に定義の見直しを行ったため、2005年3月及び2008年3月と、2009年9月とでは集計方法が一部異なります。

※ 各サービスサイトの性質上、複数の取引を行ってもユニークユーザーを認識しうることには重複を省く一方、グループ企業間における重複顧客はダブルカウントされています。

第三者評価機関による各サービス・商品の評価

SBI証券

- ★「オリコンCS(顧客満足度)ランキング」
ネット証券ランキングにて**総合1位**
(2009年12月発表)
- ★「日経トレンドィ」09年11月号にて、ネット証券の中の**BEST証券**に選ばれました。
- ★ストック・リサーチ社のインターネット証券ランキングにて**総合ランキング1位**
(2009年1月発表)

SBI損保

- ★「オリコンCS(顧客満足度)ランキング」
自動車保険ランキングにて**総合4位**
 - ・保険料の満足度: **1位**
 - ・付帯サービスの充実度: **1位**
 - ・申込み時の利便性: **2位**
(2009年12月発表)
- ★「週刊ダイヤモンド」09年3月14日号の自動車保険料ランキングにて**1位**

住信SBIネット銀行



- ★「第6回日経金融機関ランキング」の顧客の満足度評価にて**2位**(前回6位)
(2010年1月発表)
- ★「クチコミランキング」のネットバンクランキングにて**1位**
(2010年1月発表)
- ★「あるじゃん」09年10月号にて利息・手数料の安さ・投資信託取扱本数にて**1位**

SBI アクサ生命

- ★「クチコミランキング」の収入保障保険ランキングにて**1位**
(2010年1月発表)
- ★「エコノミストマネー」09年11月号のFPによる「保険を徹底比較！」にて、6社の定期保険中「**総合力で最安値**」と紹介されました。
- ★「日経トレンドィ」10年2月号にて、6社の定期保険中「**30歳、40歳、50歳と、どの年齢で加入しても月額保険料が最安**」と紹介されました。

認知度の更なる向上にむけた継続的なSBIグループ広告の実施

2009年12月後半～今期末

テーマ：「家計防衛してますか？」

媒体：交通（エスカレーター・駅張りポスター・中吊り）、
新聞、雑誌、Web等（予定含む）



来期（4月以降）

TVCMの実施を予定

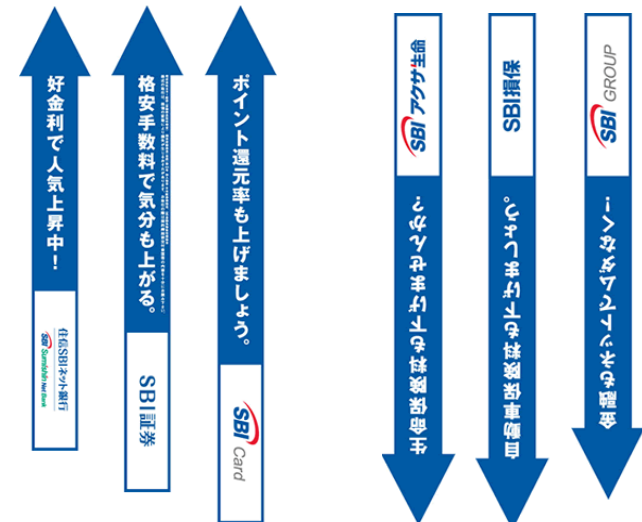


2010年1月に実施した認知度調査では、**65.2%**の人が
SBIグループを「詳しく知っている」「知っている」または
「聞いたことがある」と回答（東京23区）^(※)

【2009年12月22～28日 東京メトロ永田町駅】
東京メトロ最長となる38.4mのエスカレーター横スロープを活用した広告



エスカレーターの「上り」「下り」という特性を
グループ各社のサービス訴求に絡めて利用



② 金融商品ならびにマーケット機能の提供に留まらず、
グローバル金融関連コンテンツ事業の拡充を図り、
「日本最大の金融商品ディストリビューター」へ

（ グローバル金融関連コンテンツ提供の第1弾として
「ウォール・ストリート・ジャーナル日本版」サービス開始 ）

「ウォール・ストリート・ジャーナル(WSJ)日本版」、 12月15日より提供開始

～ 日本初の本格的有料オンラインメディアが誕生 ～

運営:

ウォール・ストリート・ジャーナル・ジャパン(株)
(出資比率) SBIホールディングス 40%
Dow Jones & Company 60%

- ・サービス開始後1ヶ月間のPVは約150万PVに
(09/12/15～10/1/14)
- ・12月下旬より「Twitter(ツイッター)」開始、
フォロワー数が順調に増加
- ・米国版WSJ.comに掲載される毎日約200本の
記事の中から厳選し、幅広い分野の記事を翻訳
- ・日本の読者に関係が深い、金融、ビジネス、アメリカ政治・経済の解説記事のほか、日本版特別コラム
や世界各国のオピニオンリーダーからの寄稿記事などを紹介
- ・日本版オリジナルコンテンツ「ビジネス英語」を提供



米政府、サイバー攻撃で 中国側に正式な調査要 請の見通し

米政府は、インターネット検索最大手グーグルが主張するサイバー攻撃に関する調査を中国側に正式に要請する見通し。グーグルは中国側に検索結果の制限を中止するよう主張しているが、中国側はグーグルのこうした動きをこれまで軽視してきた。



米FRB、今月開催のFOMCで政策変更の公算小さい

米連邦準備理事会(FRB)高官らは今年、米景気拡大は極めて速いペースにとどまり、失業率の大幅低下にはつながらないと予想している。それにもかかわらず、今月26-27日に開く連邦公開市場委員会(FOMC)では、できることはそれほど多くないと結論する可能性が高い。

URL <http://jp.wsj.com/>

課金モデルの数少ない成功例としてのWSJ.com

1996年に開始したWSJの電子版online.wsj.comは無料コンテンツが多数を占めるインターネットで成功している数少ない有料オンラインメディア、と言われる



- ・購読者数 : 1,067,000人
(2009年3月現在)
- ・年間購読料 : 103ドル
- ・月間平均UU数: 2,152万UU
- ・月間平均PV数: 2億2,000万PV

- 米国発WSJの歴史と実績:
- ・ 1889年創刊、120年の歴史
 - ・ 発行部数全米No.1の 187万人超
 - ・ 総勢約2,000名の記者と編集者
全世界86都市122箇所の編集支局
 - ・ ピューリッツァー賞33回受賞

速報性にも優れるWSJ日本版

海外ニュースが日本の新聞に掲載されるまでの流れとWSJ日本版の場合との違い
WSJ紙面(朝刊)に掲載される記事の場合(イメージ)

1) 日本の新聞掲載の場合

2) 「WSJ.com日本版」の場合

THE WALL STREET JOURNAL(電子版)への記事掲載

海外特派員が情報入手し、
要約記事を作成

国内紙(夕刊)入稿

通常夕刊に要約記事のみが掲載

「米紙ウォールストリート・ジャーナル
(電子版)によると…」

選択、翻訳、編集

3~6時間程度で

記事
掲載



※ 時差の関係上、世界で2番目の
早さで最新の情報を日本語にて
閲覧することが可能

日本時間7:00
(現地時間
前日19:00前後)

10:00~13:00
(同 前日22:00~
当日1:00)

最大7時間の
タイムラグ

17:00頃
(同 当日5:00頃)

米国の翌日の朝刊に載る主要記事が日本では前日の昼間のうちに読める

金融商品とマーケット機能、グローバル金融コンテンツの 同時提供により「日本最大の金融商品ディストリビューター」へ

中国情報の充実を目指して、中国企業とのJV設立に向けても協議中

魅力ある金融商品の提供

SBI証券

インターネット証券

住信SBIネット銀行

 SBI Sumishin Net Bank

インターネット銀行

SBI損保

インターネット損害保険

SBI アクサ生命

インターネット生命保険

 SBI GROUP

SBI住宅ローン

住宅ローン等代理店

 SBI Card

クレジットカード

より良い取引を目指したマーケットプレイスの提供

 SBI Liquidity Market

店頭外国為替証拠金(FX)
取引に関するマーケットインフラの提供

 SBI Japannext

私設取引システム
(PTS)の運営

グローバル金融コンテンツの提供

THE WALL STREET JOURNAL.

ウォール・ストリート・ジャーナル 日本版 japan.WSJ.com

WSJ.com等のニュース記事の配信

MORNINGSTAR

投資信託等の金融商品の
評価情報の提供

ヤフー・ファイナンスの
有料コンテンツで購読数No.1

The Keibun Shimbun
株式新聞

投資信託等の金融商品の
評価情報の提供

FundBank

投資信託専門の
金融情報の提供

SBI マネーワールド

SBIグループ会員専用SNS

 保険の窓口
インスウェブ

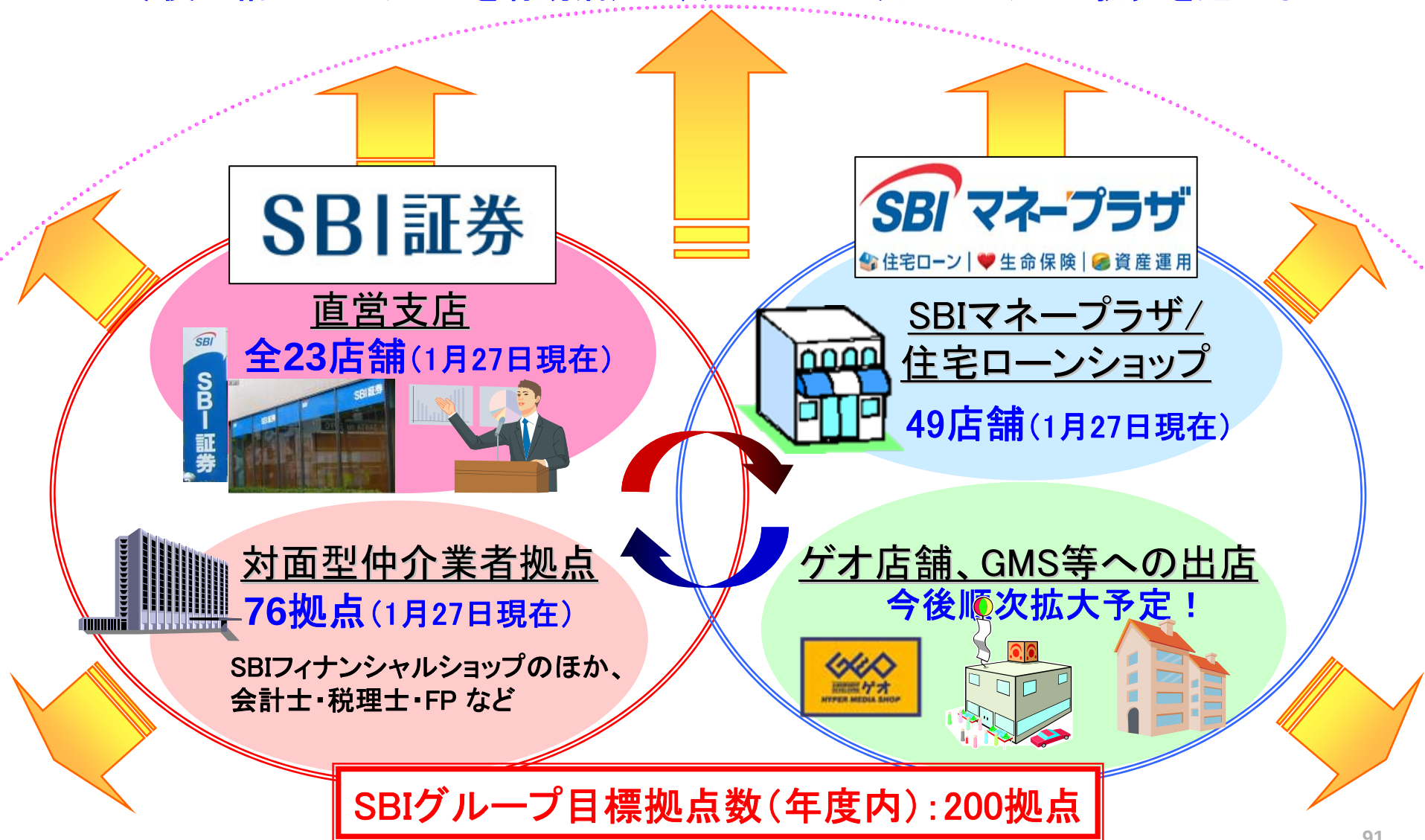
保険やローン等の金融商品の
比較情報の提供

E-LOAN

③ 顧客へのリーチ拡大を目指したリアルチャネルの拡充

新規出店と連携強化により更なる拡大を続けるリアルチャネル

業務仲介契約を締結してSBIマネープラザの店舗をSBI証券の仲介業者拠点とするなど、
今後は相互のチャネルを有効活用し、グループのリアルチャネル拡充を進める



「ネット」と「リアル」両面の販売チャネルを通じて 低コストで魅力的な金融商品を幅広く提供

「ネット」チャネルの例

SBI証券

業界最安値水準
の証券手数料、
FX取引

住信SBIネット銀行

SBI Sumishin Net Bank

好金利の預金

SBI損保

業界最安値水準
の自動車保険料

SBI アクサ生命

業界最安値水準
の生命保険料

SBI Card

業界最高水準ポイ
ント還元率カード

SBI Mortgage

業界最低水準金
利の長期固定住
宅ローン

「リアル」店舗の例

SBI マネープラザ 49店舗(*)
住宅ローン | 生命保険 | 資産運用

SBI証券

支店

23店舗(*)

対面型仲介業者拠点 76拠点(*)

全国に店舗展開を行う企業との
提携によるリアルチャネル



全国964店舗
(FC含む)

Gulliver

全国417店舗
(FC含む)

お客様



④ 新規事業の業績飛躍を目指した異業種提携の推進

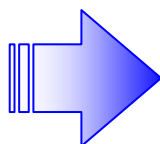
異業種提携の要となるSBIカードの今後の展開

「GEO Visaカード」や「SBIカードVISA」発行により、グループ各社の新規顧客開拓や取引数の拡大などのシナジー創出を目指す

【2013年3月のカード事業の黒字化に向けたスケジュール(目標)】

カード発行枚数は6万3千枚(09年12月末現在)から100万枚(13年3月末)へ

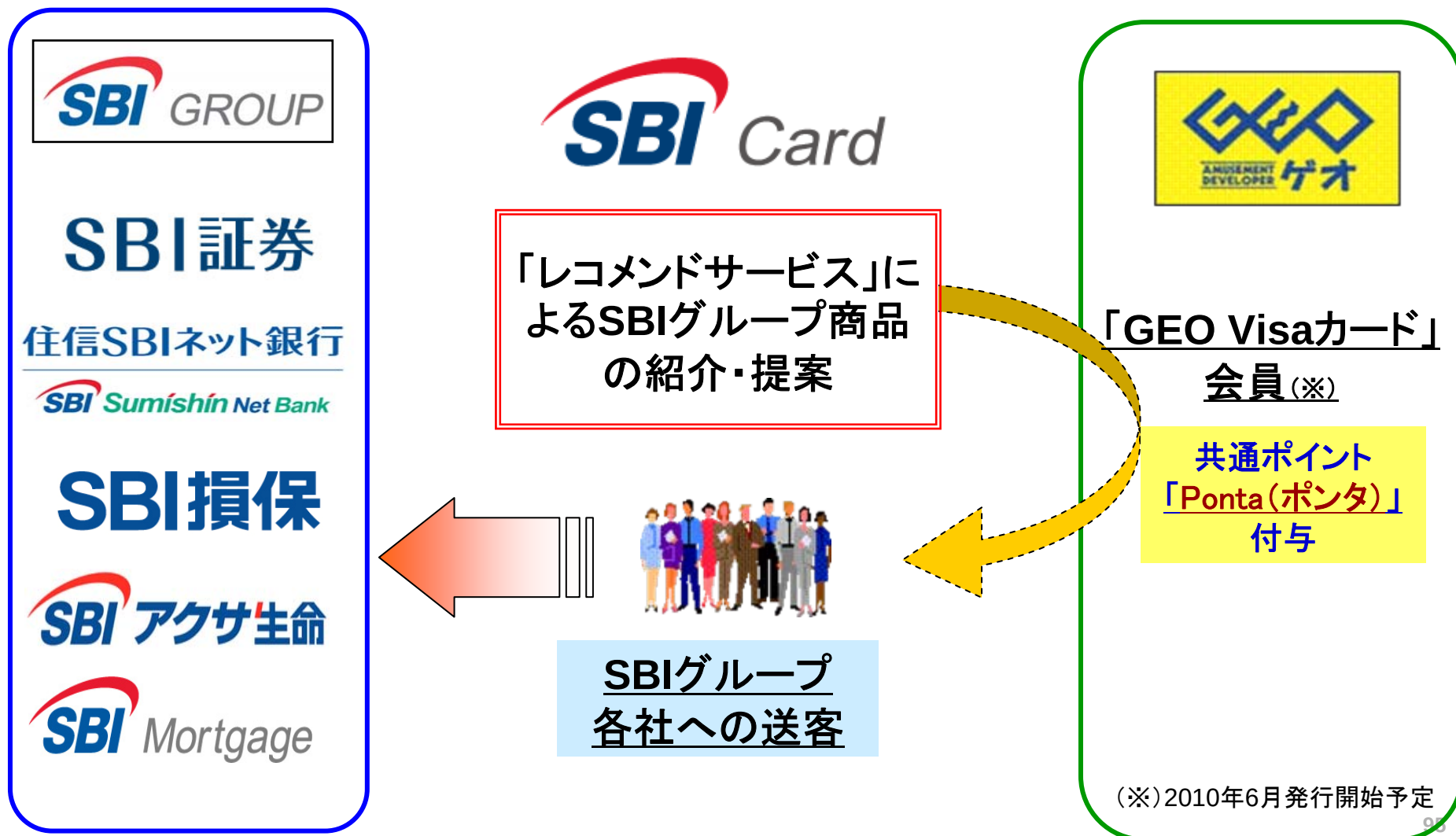
- ・2009年2月 VISAカードのライセンス取得
- ・2010年1月(現在) アクワイアリングのシステム構築に向けて準備中
- ・2010年6月 ゲオグループの会員向け提携カード「GEO Visaカード」
の発行を開始予定
- ・2010年10月 「SBIカードVISA」の発行を開始予定
 - ・ポイントは業界トップクラスのキャッシュバック還元率
 - ・SBIグループ各社との取引状況に応じて段階的に0.5%から最大2%を超えるポイント還元を予定



SBIカードを通じた新たなグループシナジーの創出



『レコメンドサービス』や『共通ポイントサービス』などにより、
グループ各社の集客および取引数の拡大を図る



DVDレンタル・ゲーム販売大手のゲオと共同設立した「SBIゲオマーケティング」は本格稼動に向けて順調に進捗



【SBI損保】

- ・09年7月よりゲオ店舗(※)にてSBI損保の自動車保険の紹介と見積り申込受付を開始

【SBIカード】

- ・ゲオグループの会員向け「GEO Visaカード」の発行を準備中(10年6月発行目標)

【SBIマネープラザ(各種金融商品)】

- ・ゲオ店舗内でSBIマネープラザを併設。今春の1号店オープンに向け現在準備中。

【SBI証券】

- ・SBI証券の取次等の証券仲介を検討中

【SBIベリトランス・住信SBIネット銀行】

- ・ゲオグループのウェブチャネル向けに、決済機能提供を検討中

異業種との共通ポイント導入で更なるシナジーを追求

共通ポイント「Ponta(ポンタ)」にSBIグループが参画へ 当初はアフィリエイトでの参加を予定

SBI GROUP

SBI証券

201万口座
(1/26時点:速報値)

住信SBIネット銀行
SBI Sumishin Net Bank

67万口座
(1/25時点:速報値)

SBI Card

「GEO Visaカード」で
Pontaポイント付与(*1)



年間見積り
76万件

AutoCone

年間利用者
180万人(*2)

ポイント、ポンポンたまる。



© Ponta

(*1)10年6月発行予定 (*2)当初よりPontaポイント付与

「Ponta(ポンタ)」提携企業

「Ponta」の会員基盤は既に約2,000万人を確保。
サービス開始から3年後に3,000万人規模、提携企業数30社を目指す。

ローソン

- ・会員数:約1,000万人
- ・全国約8,600店舗



- ・会員数:約1,000万人
- ・全国964店舗

昭和シェル石油

- ・全国約3,500店舗

その他大手外食チェーン、食品スーパー、ドラッグストア、百貨店など幅広い分野の参画を予定

新規事業の業績飛躍を目指した異業種との提携

ネットのみではリーチできなかった顧客層へ効率的にアプローチ



SBI損保

自動車保険

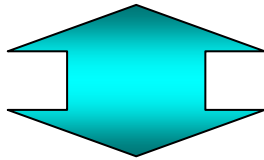
SBI Card

クレジットカード

住信SBIネット銀行

SBI Sumishin Net Bank

オートローン



SBIグループの既存チャネルの例

SBI証券

(23支店・75拠点)

201万口座

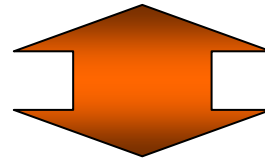
(1/26時点:速報値)

住信SBIネット銀行

SBI Sumishin Net Bank

67万口座

(1/25時点:速報値)



提携により拡大された異業種チャネル

(提携発表) 09年8月

DVDレンタル大手



- ・稼働会員: **1,000万超**
- ・全国964店舗(FC含む)

09年10月

中古車売買大手



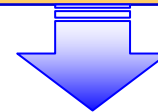
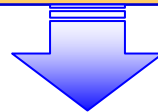
- ・年間約25万台の買取
- ・年間約4万台の小売
- ・全国417店舗(FC含む)

08年3月

中古車オークション
会場運営大手



- ・会員数: 約15,000社
- ・年間: 約70万台出品



中古車オークション会場運営大手のJAAと共同設立した SBIオートサポートの中古車販売業者登録数は順調に増加



【自動車関連金融商品】

・自動車保険:

SBI損保

・オートローン:

住信SBIネット銀行

SBI Sumishin Net Bank

70%



30%



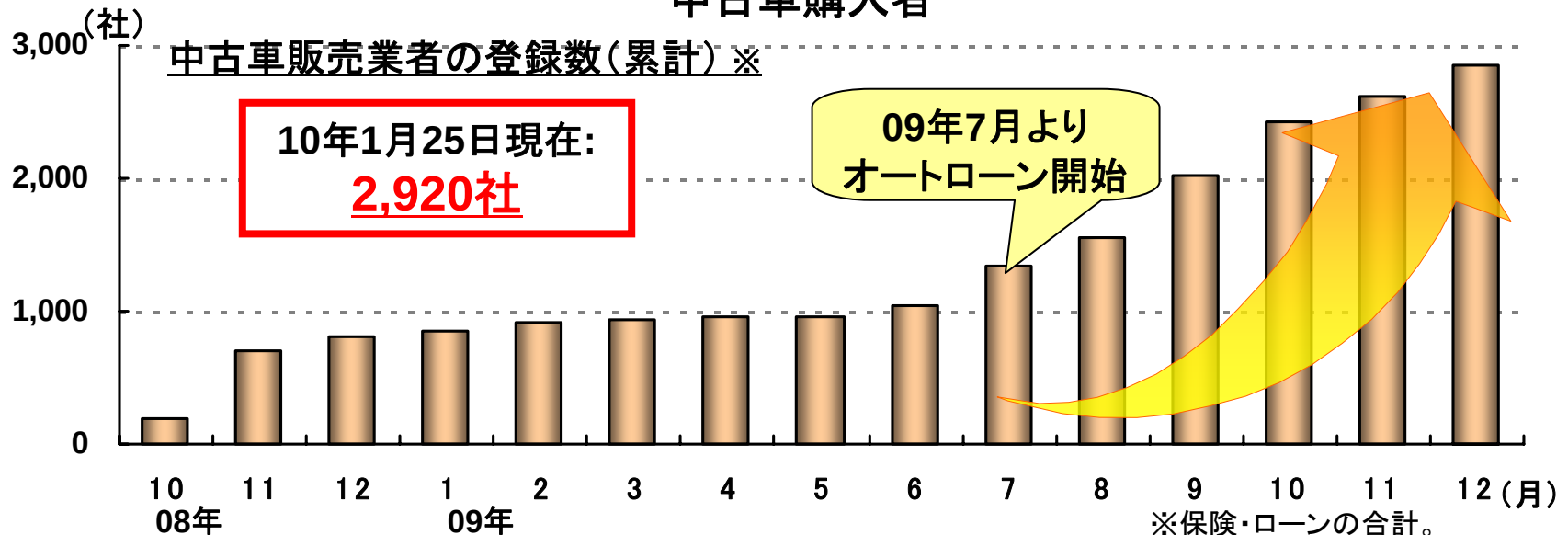
SBIオートサポート(株)

・中古車販売業者を通じた購入者
への金融サービス提供を支援

- ・オークション会場運営ノウハウ
(国内3ヶ所運営)
- ・会員数: 約15,000社
- ・年間総出品台数: 約70万台

中古車販売業者

中古車購入者



- (2)–① 中国をはじめとするアジア新興国を中心に展開する
海外ファンド事業の状況
- ② 日本で構築したインターネット金融生態系を海外へ

① 中国をはじめとするアジア新興国を中心に展開する海外ファンド事業の状況

中国に牽引され増加する世界のIPO

世界におけるIPO社数と資金調達額の推移

(10億USD)

■ IPOによる資金調達額

---□--- IPO社数

(社)

1000

900

800

700

600

500

400

300

200

100

0

社数

調達額

120

100

80

60

40

20

0

1Q

2Q

3Q

4Q

1Q

2Q

3Q

4Q

1Q

2Q

3Q

2007年度

2008年度

2009年度

(10-11月)

世界のIPO資金調達額は2009年10-11月の2ヶ月で2007年10-12月(3ヶ月)の水準を上回る。2009年からの11カ月では中国が391億ドルで全体の41%と全体を牽引

567

440

891

251

267

164

78

50

76

149

180

90

59

102

41

38

13

3

1.4

10

38

49

New Horizon Fund(1号ファンド)の運用状況

- 2005年5月の運用開始から、投資先10社のうちこれまでに8社が上場/Iグジット済み
- 設立から2009年度第3四半期までの累計営業利益では**96.7億円**
- 当社持分で**約44億円**(1/26現在)の含み益を有しており、最良の売却タイミングを見計らって利益極大化を図る

(単位:百万USDドル)

投資先名	投資残高	種類	IPO/M&A 予定	キャピタルゲイン		
				2008年 3月末	2009年 3月末	1月26日 現在
Sichuan Meifeng Chemical Industry	8.3	A株		63.7	26.4	16.3
Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development	2.6	A株		144.6	66.6	60.6
China Printing & Dyeing Holding	-	普通株		0.2	-	※1 -
Yingli Green Energy Holding	-	普通株		4.5	-	-
Kingsoft	-	普通株		2.3	4.4	-
Goldwind Science and Technology	0.5	A株		124.9	29.9	11.9
China Cord Blood Corporation	4.1	普通株		17.6	17.6	11.8
Jiangsu Ealong Biotech	-	-	-	5.6	5.6	-
Shineway Group	20.4	プレIPO	2010	15.0	15.0	15.0
Cathay Industrial Biotech	12.0	プレIPO	2011	79.1	79.1	79.1
合計	47.9			457.5	244.6	194.7

IPO/EXIT済
時価評価

IPO/M&A
未済
予想評価

(約458億円) (約240億円) (約176億円)

【当社受領分配金額】※2

【09年度4Q以降の見積額】(2010年1月26日現在の見込)

設立～2007年度	2008年度	2009年度 1-3Q累計	2009年度4Q	2010年度	2011年度	09年度4Q以降の 総分配見積額
9億円	61億円	47億円	31億円	23億円	30億円	84億円

注: 分配金見積額は、現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これらの金額が確定しているわけではありません。

※1 清算中 ※2 売却額より売却に付随する費用を差し引いた額。

すでにNew Horizon Capital(2号ファンド)も高パフォーマンスを見込む

2号ファンドの投資企業16社のうち、すでに3社が上場済み
その他の7社についても今期～来期のIPOまたはM&Aを予定

上場済銘柄:3社

会社名	EXIT形式	時期
GCL	M&A	2009年6月
BBMG	IPO	2009年7月
New Windrace	M&A	2009年10月

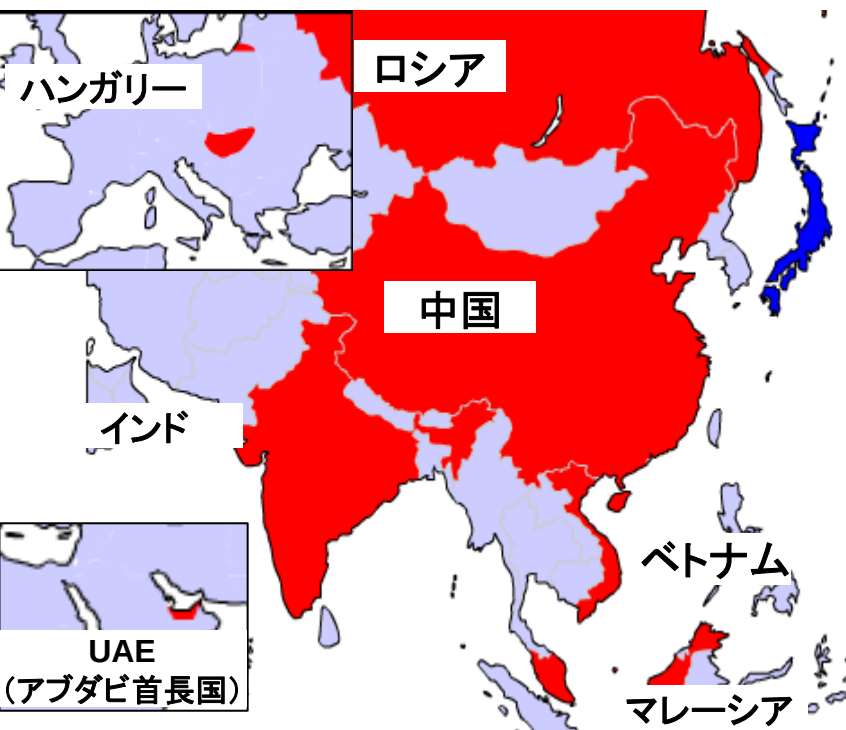
IPO/M&A予定銘柄:7社

※1月26日時点の見込みであり、変更となる可能性があります。

会社名	EXIT形式	予定時期
New Century	M&A	2010年
Meihua	M&A	2010年
Navinfo	IPO	2010年前半
YuHeng	IPO	2010年前半
Rong Sheng	M&A	2010年
Sunac	IPO	2010年前半
Sinovel	IPO	2010年

着実に投資活動を進める海外VCファンド

～ 2010年3月期は第3四半期末までに13社に5,894百万円の投資を実行※1 ～



運用開始済ファンド ※2

NHF1号

投資先企業数: 6社
(うち、5社上場済)

投資残高: 4,879百万円

北京大学ファンド

投資先企業数: 1社

投資残高: 1,841百万円

台湾ファンド

投資先企業数: 1社

投資残高: 29百万円

インドファンド

投資先企業数: 1社、投資残高: 427百万円

NHF2号(LP出資)

投資先企業数: 16社
(うち、3社上場済)

投資残高: 44,499百万円

清華大学ファンド

投資先企業数: 2社

投資残高: 229百万円

ベトナムファンド

投資先企業数: 8社

投資残高: 2,737百万円

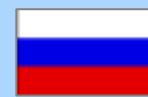
投資待機中のファンド(カッコ内は出資約束金額)



ハンガリーファンド
(13,192百万円)



マスダールファンド
(1,841百万円)



ロシアファンド
(9,207百万円)



中国3社との共同ファンド
(Offshore: 1,885百万円
Onshore: 809百万円)

慶応大学ファンド
(500百万円)



マレーシアファンド
(4,604百万円)

※1 LP出資しているNHF2号の1社1,325百万円を含む

※2 投資先企業、投資残高は残高ベース

② 日本で構築したインターネット金融生態系を海外へ

アジア新興国における銀行への出資

銀行業への出資を起点として、アジア新興国での事業の裾野を広げる

ベトナム



ティエン・ホン銀行

(08年5月開業、09年8月に20%持分を取得)

設立初年度に黒字化達成。2期目も引き続き業績拡大
本店に加え5支店、6出張所を展開。

(2009年12月期・速報ベース)

営業収益 16.7百万米ドル

税引き後利益 6.7百万米ドル

総資産 580百万米ドル

口座数 19,093

預金 229百万米ドル

ローン 171百万米ドル



カンボジア



プノンペン商業銀行 (08年9月開業、出資比率40%)

順調に利益拡大を続け、創業2期目に黒字化達成。
1月26日に第一号支店を開設

(2009年12月期・速報ベース)

営業収益 1.9百万米ドル

税引き後利益 0.4百万米ドル

総資産 34.1百万米ドル

口座数 1,686

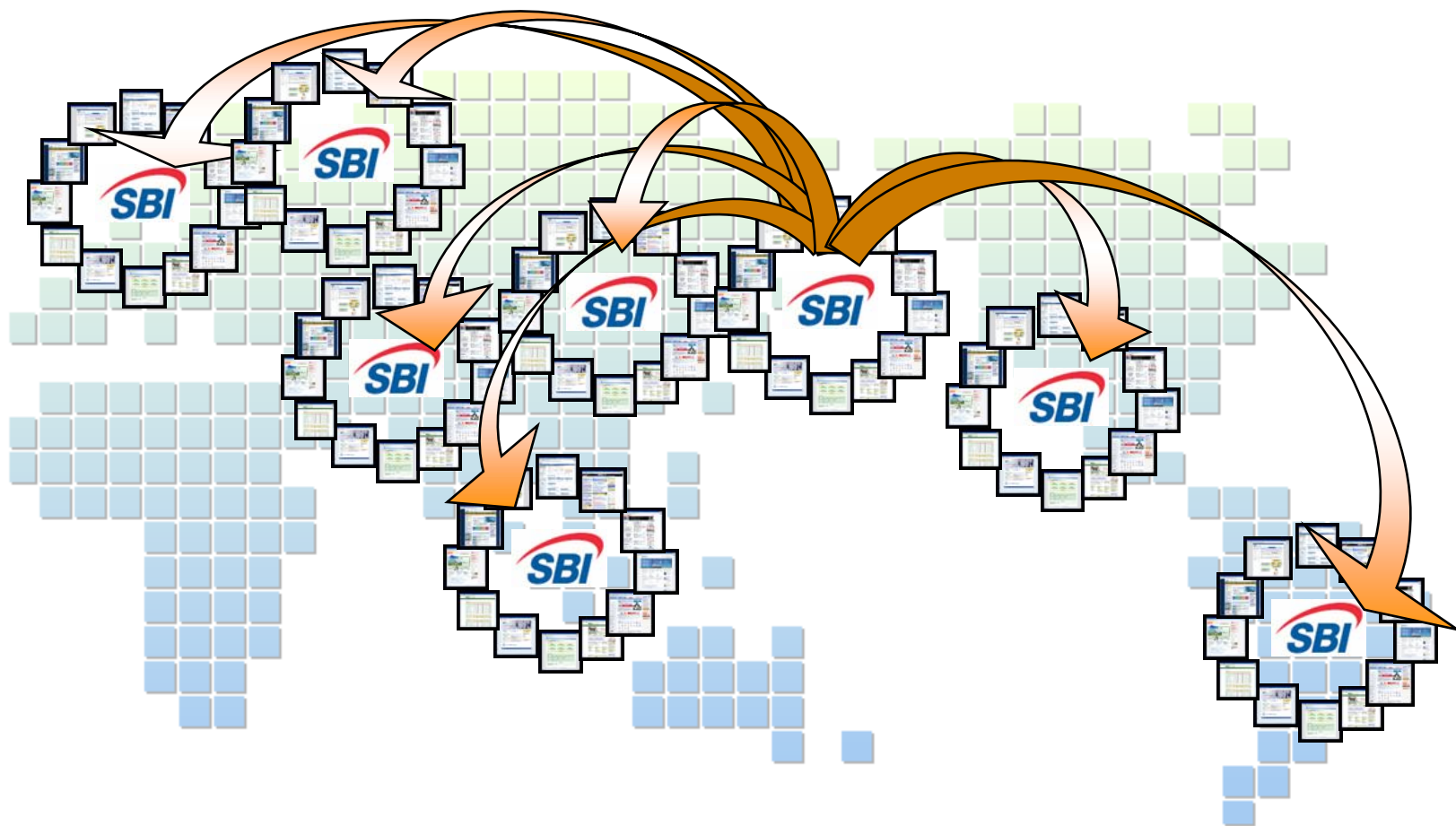
預金 19.1百万米ドル

ローン 12.7百万米ドル



ロシアにおけるファンド提携先のIFC METROPOL社傘下の
銀行への出資に向けて条件交渉中

JVファンド設立を通して構築した
パートナーシップ等を活用し、アジアをはじめとする新興国に
向けてSBIグループのインターネット金融生態系を移出



日本のSBIから世界のSBIへ

【今後収益が期待されるバイオ関連の進捗】

バイオ関連事業の進捗状況

SBIバイオテック

- 中国の医薬開発ベンチャーHuapu社との提携による核酸医療プロジェクトは、12月上旬より米国にて臨床試験(フェーズⅠ)開始。北米のグループより小児急性白血病への適応拡大の要請を受け、提携交渉開始。
- 米国ベイラー研究所との提携による免疫細胞療法は、米国にて臨床試験(フェーズⅡ)治験中。現在、日本における臨床研究も準備中。
- 韓国Helixir社(現ViroMed社)との提携により開発した、健康補助食品「ノースっとサルナシ」のネット販売サイトを本年1月に開設。
花粉症シーズンに向けて、1月21日よりケーブルTVにて宣伝開始。

SBIアラプロモ

- ドイツのメダック社と共同で設立したアラファーマ社(2009年6月設立)では欧州でのサプリメントの登録準備中。
- 国内では既にALA配合のハンドクリームや美容クリーム等を販売。引き続き新たなALAを利用した化粧品を研究・開発中。
- 国内でのALA配合サプリメントは2010年4月より販売開始予定。
- 2009年11月よりALAの医療・健康分野における研究のため東京工業大学に寄付講座を開設。
- 海外複数拠点においてサプリメントの実証研究中。

着実に進むバイオ関連出資先の研究開発

クオーク・ファーマシューティカルズ社 (SBIグループ出資比率: 24.87%)

1) QPI-1002 (急性腎不全、臓器移植後の拒絶反応防止薬)

- ・2010年1月に、進行中であったフェーズ I・II の臨床試験に対して独立データ安全性モニタリング委員会より次のフェーズに進めるよう推奨を受ける

2) QPI-1007 (虚血性視神経症、緑内障)

- ・眼病の神経保護剤としてバイオスプリング社と共同で開発
- ・2010年3月までにフェーズ I・II の臨床試験を開始する予定

3) PF-4523655 (WET型加齢黄斑変性症 (AMD)、糖尿病性網膜症 (DME))

- ・ファイザー社へ世界規模独占的なライセンス供給を行っている
- ・2009年10月に根幹となる知的財産権に対し、日本の特許が登録される
- ・現在、フェーズ II a の試験中。

アキュセラ社 (SBIグループ出資比率: 26.34%)

ACU-4429 (ドライ型加齢黄斑変性症)

- ・大塚製薬との共同開発の戦略的パートナーシップを構築している
- ・2010年1月にフェーズ II の臨床試験を開始

<http://www.sbigroup.co.jp>